

姫路市

播磨国分尼寺跡

-（主）神戸加古川姫路線（姫路市国分寺工区）道路改良工事に伴う発掘調査報告書-

2003年3月

兵庫県教育委員会

姫路市

播磨国分尼寺跡

—（主）神戸加古川姫路線（姫路市国分寺工区）道路改良工事に伴う発掘調査報告書—

2003年3月

兵庫県教育委員会



遺跡遠景（播磨灘をのぞむ）



遺跡遠景（南上空から）



調査地点及び推定寺域近影（南上空から）



遺跡出土土器

例　　言

1. 本書は、兵庫県姫路市御国野町国分寺字尾沙門に所在する播磨国分尼寺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理作業については、兵庫県姫路土木事務所の依頼を受けて兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が実施した。
3. 全面調査は、株式会社東海アーナスと作業委託契約を交わして実施した。
4. 整理作業は、平成13・14年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所において実施した。遺物写真は株式会社イーストマンに撮影を委託した。
5. 本書に使用した方位は国土座標V系を基準にし、水準は大阪湾平均海水準（O.P.）を使用した。また、各遺構図面で使用している方位は座標北を指す。
6. 本書に使用した遺跡分布図等の地図については、国土地理院発行2万5千分の1地形図「加古川」「笠原」「姫路北部」「姫路南部」図幅を使用した。
7. 本文挿図（第3図・第4図）は、1993年3月姫路市教育委員会刊行の『播磨国分尼寺跡－遺跡発掘事前総合調査概要報告－』の別添付図に示された寺域復元図を基に、本調査区を入れて再トレースを行ったものである。
8. 本書の編集及び執筆は宮田麻子の補助を得て、久保弘幸と深江英憲が担当した。なお、各執筆担当は本文目次に記した。
9. 本書の調査成果は、調査後即実績報告書の提出を行っているが、ほぼ同時に調査を実施した姫路市教育委員会刊行の報告書と、実績報告の内容とに一部齟齬が生じている。本報告では姫路市教育委員会の内容に準拠する事とする。

目 次

第1章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯 (久保弘幸) 1
第2節 発掘調査の経過 (久保) 2
1. 確認調査	
2. 全面調査	
第3節 整理の経過 (深江美憲) 5
1. 平成13年度の整理作業及び体制	
2. 平成14年度の整理作業及び体制	
第2章 遺跡をとりまく環境	
第1節 地理的環境 (久保) 6
第2節 歴史的環境 (久保) 7
第3章 調査の成果	
第1節 遺跡の概要 (深江) 9
第2節 遺構 (深江) 9
1. 層序	
2. 遺構：溝	
：土坑	
第3節 出土遺物	
1. 土器 (深江) 14
2. 瓦 (深江) 15
3. 石製品 (深江) 20
第4章 おわりに (深江) 21

卷頭写真図版

図版1 上：遺跡遠景（播磨灘をのぞむ）

下：遺跡遠景（南上空から）

図版2 上：調査地点及び推定寺域近景

（南上空から）

下：遺跡出土土器

挿図目次

第1図 遺跡の位置	1
第2図 発掘作業風景	2
第3図 確認調査区及び姫路市教育委員会調査トレント位置図	3
第4図 全面調査区及び姫路市教育委員会調査トレント位置図	4
第5図 平成13年度の整理作業風景	5
第6図 平成14年度の整理作業風景	5
第7図 播磨国分尼寺跡の位置と周辺の地形	6
第8図 播磨国分尼寺跡と周辺的主要遺跡	7
第9図 調査区断面図	10
第10図 遺構配置図	11
第11図 溝断面図	12
第12図 土坑(SK01)遺物出土状況	13
第13図 軒瓦の分類	17
第14図 平瓦の叩きの分類	18
第15図 文字瓦拓影	19

表目次

表1 播磨国分尼寺跡と周辺的主要遺跡の地名表	8
------------------------	---

図版目次

図版1 土器

図版9 丸瓦6・平瓦1

図版2 軒丸瓦1

図版10 平瓦2

図版3 軒丸瓦2・軒平瓦1

図版11 平瓦3

図版4 丸瓦1

図版12 平瓦4

図版5 丸瓦2

図版13 平瓦5

図版6 丸瓦3

図版14 平瓦6

図版7 丸瓦4

図版15 平瓦7

図版8 丸瓦5

図版16 平瓦8

- 図版17 平瓦 9
図版18 平瓦10
図版19 平瓦11
図版20 平瓦12
図版21 石製品 1

写真図版目次

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 図版 1 上：調査位置と播磨国分尼寺跡推定寺域（上空南から） | 図版19 丸瓦 2 |
| 下：調査区全景（上空東から） | 図版20 丸瓦 3 |
| 図版 2 上：調査区全景（上空西から） | 図版21 丸瓦 4 |
| 下：調査区全景（上空真上から） | 図版22 丸瓦 5 |
| 図版 3 上：瓦出土状況全景（東から） | 図版23 丸瓦 6 |
| 下：SD01西側瓦出土状況（南から） | 図版24 平瓦 1 |
| 図版 4 上：SD01西側瓦出土状況（南東から） | 図版25 平瓦 2 |
| 中：SD01西側及びSK01遺物出土状況（南から） | 図版26 平瓦 3 |
| 下：SK01完掘状況（北から） | 図版27 平瓦 4 |
| 図版 5 上：SD01畦①断面東壁（東から） | 図版28 平瓦 5 |
| 中：SD01畦②断面東壁（東から） | 図版29 平瓦 6 |
| 下：SD01畦③断面西壁（西から） | 図版30 平瓦 7 |
| 図版 6 上：完掘状況全景（東から） | 図版31 平瓦 8 |
| 下：SD01東側断面南壁（北東から） | 図版32 平瓦 9 |
| 図版 7 上：SK01付近南壁断面（北東から） | 図版33 平瓦10 |
| 中：SK01南壁断面（北から） | 図版34 平瓦11 |
| 下：SD01東側落ち際南壁断面（北東から） | 図版35 平瓦12 |
| 図版 8 上：SD01及び東築地付近南壁断面（北東から） | 図版36 平瓦13 |
| 中：東築地及びSD02付近南壁断面（北東から） | 図版37 平瓦14 |
| 下：SD02付近南壁断面（北東から） | 図版38 平瓦15 |
| 図版 9 土器 1 | 図版39 石製品 1 |
| 図版10 土器 2 | |
| 図版11 土器 3 | |
| 図版12 軒丸瓦 1 | |
| 図版13 軒丸瓦 2 | |
| 図版14 軒丸瓦 3 | |
| 図版15 軒丸瓦 4 | |
| 図版16 軒平瓦 1 | |
| 図版17 軒平瓦 2 | |
| 図版18 丸瓦 1 | |

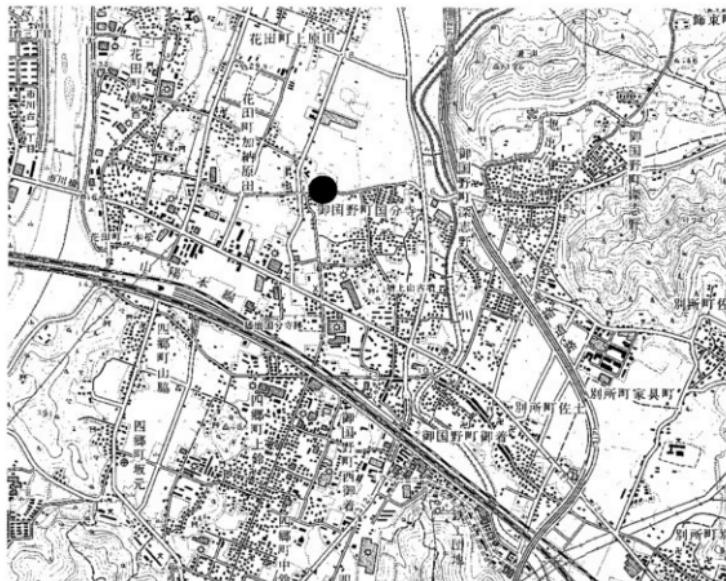
第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

播磨国分尼寺跡は、姫路市御国野町国分寺字見沙門に所在する。現在、寺域は住宅地ないし農地として利用されており、寺跡を示す遺構を地表で確認することは出来ないが、かつては高さ1m程の基壇があり、礎石も遺存していたと伝えられる。現在は、国土地理院発行の1/25000の地図上で、寺の外周を画すると思われる水田地割りを見出しうるにすぎない。

国分尼寺跡をほぼ南北に二分するように横切る主要県道神戸加古川姫路線は、地域の生活道路として利用されているが、幅員が狭小で車両の対向に支障を来すことから、地元の要請により拡幅を実施したこととなった。

発掘調査着手当時、播磨国分尼寺跡においては、既に姫路市教育委員会による寺域範囲確認調査が、平成2年度から国庫補助金によって実施されており、その結果、県道北側では東・北の築地跡が検出され、寺域が確定された他、一部の伽藍配置が明らかにされていた。こうした成果から、県道拡幅工事予定地が寺域の中枢部分を含むことが確実となったため、兵庫県教育委員会では、事業者である兵庫県姫路土木事務所（当時）の依頼（姫土第3023号 平成3年10月29日付）に基づき、確認調査を実施した。



第1図 遺跡の位置 (1/25000)

第2節 発掘調査の経過

1. 確認調査（第3図）

確認調査は、県道拡幅工事予定地に20m間隔で、4箇所の試掘坑（グリッド：図上ではGと標記）を設定して実施した。確認調査面積は、12m²である。その結果、推定寺域内にあたる1G・2Gでは、多量の瓦と共に遺構を検出した。また、寺域の東側に相当する3G・4Gでも、量的には減少するものの、若干の瓦の出土が認められた。

こうした確認調査の成果から、事業予定地内の埋蔵文化財の取り扱いが協議され、全面調査が必要との判断がなされたため、兵庫県教育委員会では、事業者である兵庫県姫路土木事務所（当時）の依頼（姫士第1899号 平成4年8月10付）に基づき、全面調査を実施することとなった。

・確認調査の体制（調査番号：910103）

調査期間 平成3年11月25日～平成3年11月26日

調査主体 兵庫県教育委員会

調査担当者 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第2課 主査 水口富夫

2. 全面調査（第4図）

全面調査は、平成4年11月17日から、同年12月28日にかけて実施した。調査は、先ず重機によって表土を除去したのち、人力による掘削を行った。県道拡幅という事業の性質上、調査区が東西77.5m、南北1.9～3.7mという狭長なものであったため、10m毎に調査区を横断する畦畔を設定し、各畦畔に沿ってサブ・トレーナーを掘削して層序関係を確認・記録した上で、掘削を実施するという手法を採用した。そして、サブ・トレーナーを掘削した時点で、調査区の西側30m程の範囲に、大量の瓦の堆積が確認されたため、以降の調査は瓦の堆積状況を確認することが主要な作業となった。また、調査区の東側10m程の範囲では遺物が殆ど出土せず、寺域外に相当するものと判断された。

遺構の記録については、調査の整合性を勘案し、姫路市教育委員会が国分尼寺跡の調査のために設置した国土座標点を利用して図化作業を行った。また、航空写真の撮影も合わせて実施した。

・全面調査の体制（調査番号：920295）

調査期間 平成4年11月17日～平成4年12月28日

調査主体 兵庫県教育委員会

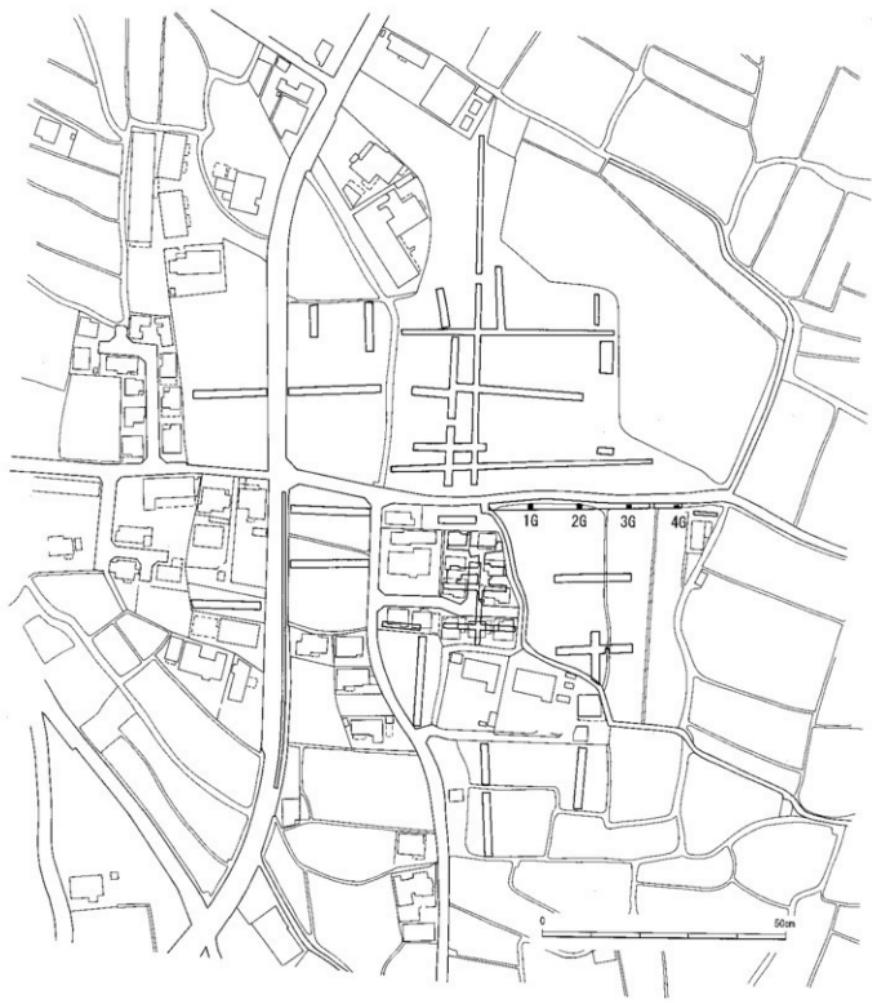
調査担当者 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第1班 技術職員 久保弘幸

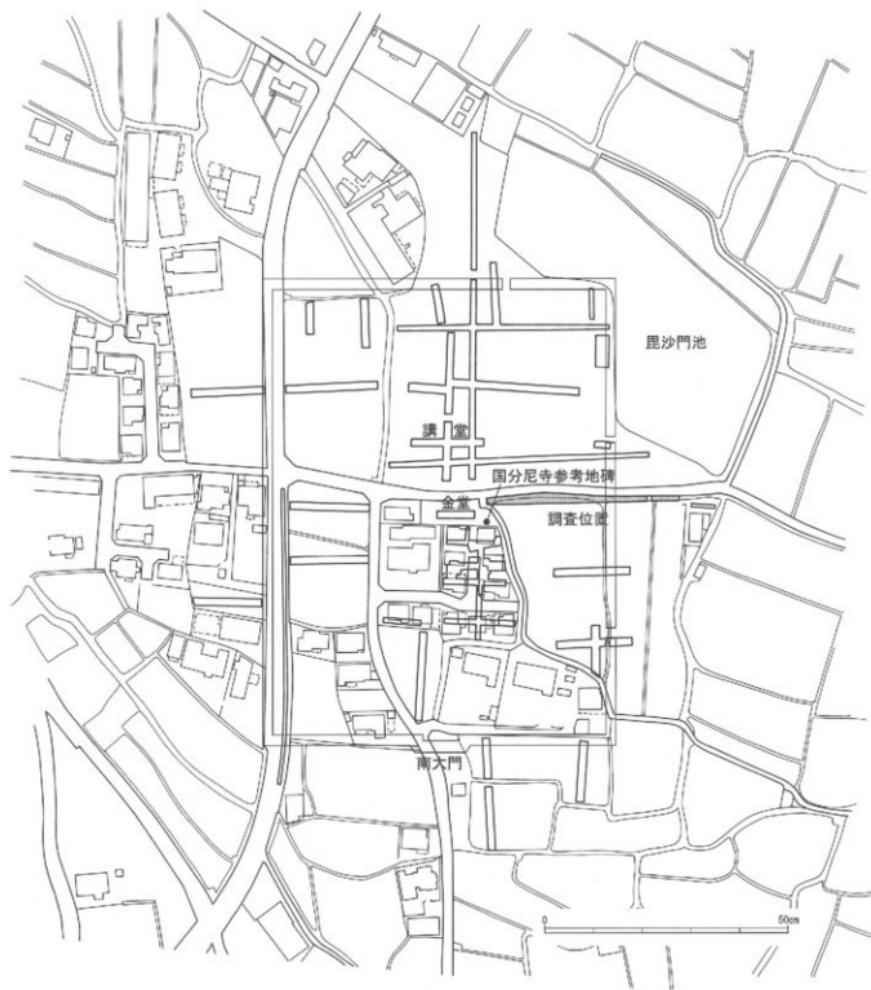
技術職員 深江英憲



第2図 発掘操作業風景



第3図 確認調査区及び姫路市教育委員会調査トレンチ位置図



第4図 全面調査区及び姫路市教育委員会調査トレンチ位置図

第3節 整理の経過

播磨国分尼寺跡の整理作業は、遺物の水洗い・ネーミング作業については兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・魚住分館で実施し、以後の作業については神戸市兵庫区光出町所在の埋蔵文化財調査事務所（荒田事務所）において実施した。

平成13年度の整理作業及び体制

実施した作業は、土器の水洗、ネーミング、接合・補強、実測、復元、遺物写真の撮影、写真整理、図面補正、トレースである。

整理担当職員 整理普及班 調査専門員 池田正男

主 任 深江英憲

調査第2班 主 壱 久保弘幸

整理技術嘱託員 宮田麻子 香川フジ子 西口由紀 木村淑子 蔵 煙子 鈴木まき子

中西睦子 宮野正子 大仁克子 早川有紀



第5図 平成13年度整理作業風景

平成14年度の整理作業及び体制

実施した作業は、レイアウト、報告書刊行である。

整理担当職員 整理保存班 調査専門員 池田正男

主 任 深江英憲

調査第3班 主 壱 久保弘幸

整理技術嘱託員 宮田麻子



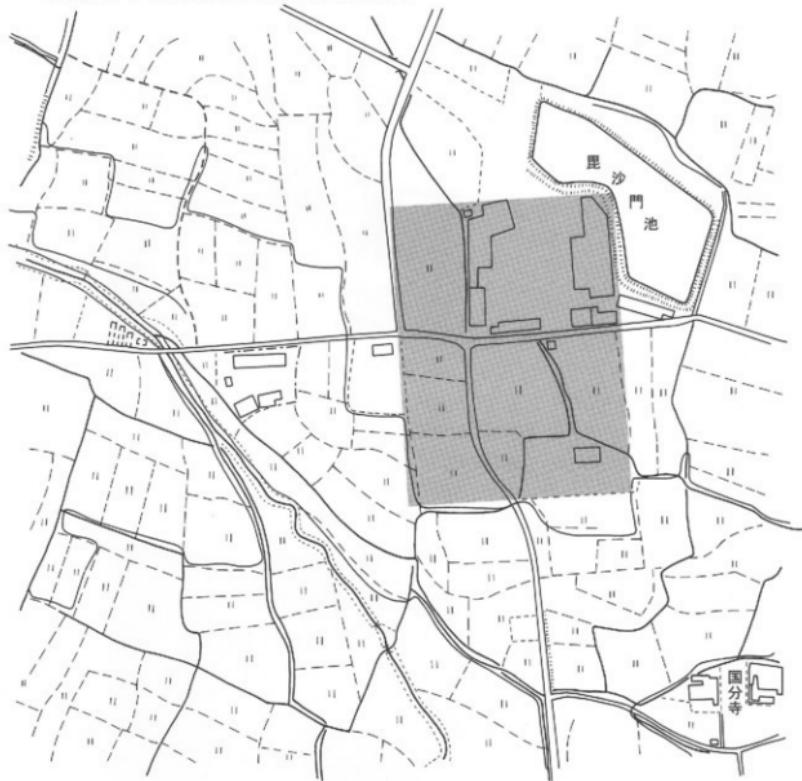
第6図 平成14年度整理作業風景

第2章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

播磨国分尼寺跡が所在する姫路市御国野町は、但馬と西播磨北部を画する中国山地に源を発する市川の左岸に位置している。御国野町の大字「国分寺」は、東西約1.3km、南北約1.0kmの範囲を占めており、その中央部やや南寄りを、国道2号線（旧山陽道）が東西に横切っている。

遺跡付近の標高は標高14mをやや超え、周辺には市川の下位段丘面に相当する平坦な水田面が広がっている。国分尼寺跡西側の水田面は、1～2m程度標高が低く、1/3000の地図（第7図）では、幅100m前後の帯状の低地が、北西から南東に延びている状況を読み取る事ができる。これは埋没河道と考えられ、現在も小河川が流れていることから、国分尼寺は小規模な河道に接する、段丘の西縁に立地していたこととなろう。ただし、河道の埋没時期は不明であり、こうした立地条件が国分尼寺の建立に際して、どのような影響を与えたかは不明である。



第7図 播磨国分尼寺跡の位置と周辺の地形 (1/3000)

第2節 歴史的環境

播磨国分尼寺跡の南約50mには、播磨国分寺が位置する。創建当時の伽藍は既に滅失しているが、江戸時代に、真言宗の「牛堂山国分寺」が再興され現在に至っている。国分寺の伽藍は、数次にわたる発掘調査によって山町四方の範囲を占めることが明らかにされており、築地の一部などが復元されている。播磨国分寺は旧山陽道に沿って建立されたものであるが、その北側にあたる播磨国分尼寺は、山陽道からはやや離れた場所に位置していたと言える。この周辺には、見野廃寺（10）・上原田廃寺（18）・豊國廃寺（20）・小川廃寺（21）・市之郷廃寺（22）・白国廃寺（24）・平野廃寺（25）等の白鳳期～平安時代の寺院跡、北宿遺跡（1）等の駅家跡、本町遺跡（23）等の官衙跡が分布している。また、全長140mを測る前方後円墳である壇場山古墳（13）や山の越古墳（12）、御旅山古墳群（2）・見野群集墳（8）・阿保百穴群集墳などがあり、「大国播磨」の中核的位置であったことを示している。



第8図 播磨国分尼寺跡と周辺の主要遺跡 (1/50000)

第1表 播磨国分尼寺と周辺の主要遺跡地名表

	遺跡名	所在地	種類	時代
1	北宿遺跡	姫路市別所町北宿	佐突駅跡	奈良
2	御旅山古墳群	姫路市舞磨区妻鹿	古墳	古墳
3	兼田丸山古墳	姫路市兼田	前方後円墳	古墳
4	打越山古墳	姫路市北原	古墳	古墳
5	奥山大塚古墳	姫路市奥山	古墳	古墳
6	宮山古墳	姫路市西四郷町坂元	古墳	古墳
7	阿保百穴群集墳	姫路市美山、四郷町東阿保・坂元	古墳16基以上	古墳
8	見野群集墳	姫路市西四郷町見野	古墳7基以上	古墳
9	長塚古墳	姫路市西四郷町見野	前方後円墳	古墳
10	見野廃寺	姫路市西四郷町見野	寺院跡	奈良
11	本郷遺跡	姫路市西四郷町本郷	生産遺跡	奈良
12	山之越古墳	姫路市御国野町国分寺	方墳	古墳
13	壇場山古墳	姫路市御国野町国分寺	前方後円墳	古墳
14	播磨国分寺跡	姫路市御国野町国分寺	寺院跡	奈良
15	播磨国分尼寺跡	姫路市御国野町国分寺	寺院跡	奈良
16	播磨国分尼寺周辺遺跡	姫路市御国野町国分寺	集落跡	奈良～鎌倉
17	前東代遺跡	姫路市御国野町深志野	集落跡	奈良～平安
18	上原田廃寺	姫路市花田町上原田	寺院跡	奈良
19	上原田遺跡	姫路市花田町上原田	官衙跡	奈良
20	豊国廃寺	姫路市筋東町豊国	寺院跡	奈良
21	小川廃寺	姫路市花田町小川	寺院跡	奈良
22	市之郷廃寺	姫路市市之郷	寺院跡	奈良
23	本町遺跡	姫路市總社本町	官衙跡	奈良
24	白国廃寺	姫路市白国5丁目	寺院跡	奈良
25	平野廃寺	姫路市北平野5丁目	寺院跡	奈良

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

播磨国分尼寺跡は、国指定を受け整備工事が進められた国分寺跡に比してその寺域や施設等の詳細な情報が不明なままであった。姫路市教育委員会は1985年から1993年までに第1次～第5次の発掘調査を実施し、寺域と遺構の残存状況の確認を行った。その結果、寺域を囲む築地基壇及び両側溝の他、講堂と考えられる施設に伴うコ字形溝、金堂と考えられる施設に伴う版築状の基壇築土、また推定寺域外において掘立柱建物群を確認している。

今回、兵庫県教育委員会が行った調査は、姫路市教育委員会の第5次調査とほぼ調査時期が重なり、特に本調査区の西側で国分尼寺参考地碑の西側のトレンチ（5次1トレンチ）、南側で寺城の東側境界と想定されるトレンチ（5次2・3・4・5トレンチ）の調査状況を随時参考にしながらの調査となった。

第2節 遺構

1. 層序（第9図）

調査区は現県道に沿った水路と水田であり、図示した部分は調査区の南壁面部の水田側である。表層の耕作土（①層）と床土（②層）を除去すると、ほぼ同一の灰色系シルト質土が堆積しており、多量に瓦を包含しているが、削平及び擾乱の影響も考えられるため、純粹に包含層と言えるかは難しい。また、遺構面を形成している土層は、暗黄灰色のシルト質土である。

2. 遺構（第10・11・12図 写真図版3～8）

本調査で検出された遺構は溝と土坑である。以下、個別に解説する。

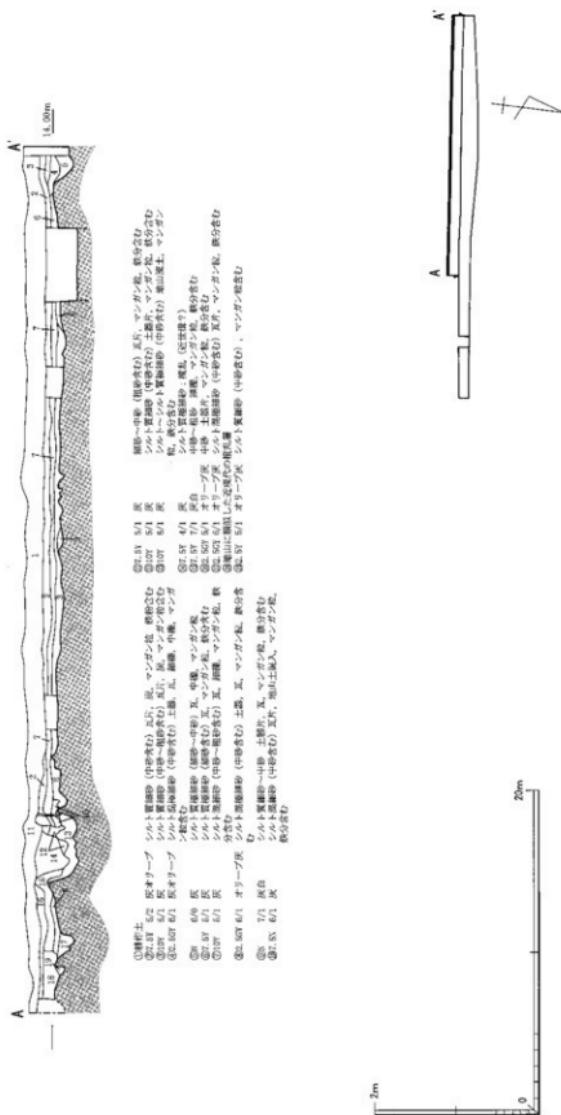
・溝（第10・11図 写真図版3～6・8）

SD01 遺構は、現県道に沿った調査区とほぼ同一方向の東西に走り、検出時の残存延長は約40mを測る。遺構の掘り方は南側部分だけを検出しており、北側の立ち上がりは現道路下に想定される。溝の幅は検出部分の状況から少なくとも2m以上になるものと考えられる。深度は検出面から最大約40cmを測る。また、溝の西側の掘り方は、調査区端でやや南方向に掘り、調査区西側に何らかの施設の存在を期待させるものであったが、東側の状況は擾乱の為に明確でなかった。

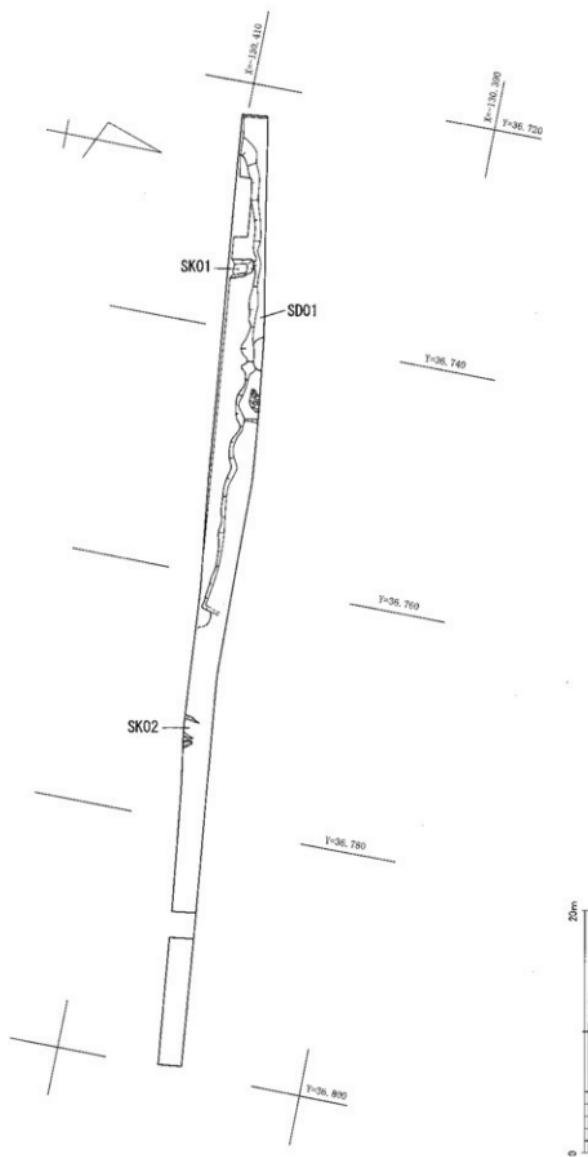
出土遺物は、遺構の西端から約30mの範囲で大量の瓦片が堆積しており、その状況は溝内部から外部の南側平坦部分にまで及んだ。また、少量ながら須恵器・土器器も出土した。

SD02 SD01の東側で検出した。SD01の東側は擾乱の影響によるものか、殆ど遺構が検出されず、SD02についても僅かに掘り方と思われる落ちを確認するのみとなった。遺構は、調査区南壁の断面状況から南北に走る溝と考えられるが、規模などは明確でない。

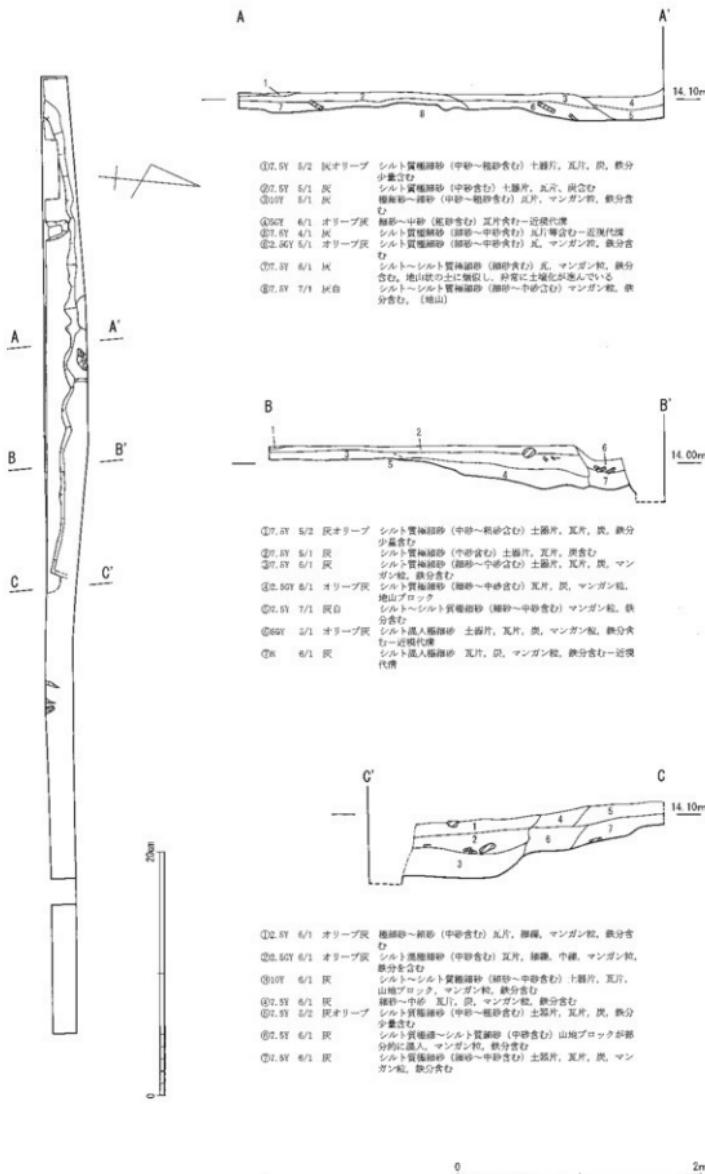
遺構に伴う出土遺物は殆ど確認できなかった。



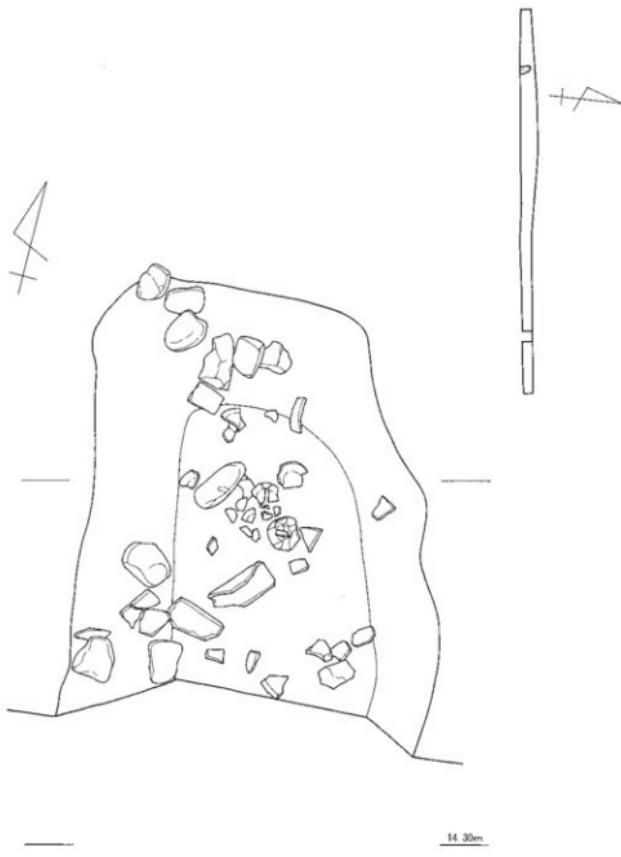
第9図 調査区断面図



第10图 遗構配置図



第11図 溝断面図



14.30m



0 1m

第12図 土坑（SK01）遺物出土状況

・土坑（第12図 写真図版4・7）

SK01 遺構は調査区西半部でSD01の南側掘り方に接した状況で検出した。土坑の形状や規模は、南半部が調査区外に延びており明確ではないが、長さ約2m、幅約1m、不定な隅丸長方形状を呈すと考えられる。また、遺構面からの深度は最大20cmを測る。

出土遺物は、溝内の状況とは異なり、土器器の环が多量に一括性の高い状況で出土し、やや扁平な円環も混在して出土した。

第3節 遺物

1. 土器（図版1 写真図版9～11）

・確認調査

坪4から須恵器碗（1）が出土した。底部付近のみ残存する。外内面は回転ナデで仕上げ、底部は回転糸切りの後に縁部をヘラで整形する。底径約6.35cm。

・全面調査

溝(SD01)から須恵器环（2，3，9，10）、土器器环（4～8，11，12，24）が出土した。

2，3，9，10は共にやや低めの高台を持つ、蓋を伴うタイプのものである。外内面は回転ナデで仕上げる。2は底径約9.1cm。3は底径約6.7cm。9は底径約8.8cm。10は底径約12.9cm。

4～7は、口縁部にかけてやや低く短目に開く体部を持つものである。口縁端部は丸くおさめるが4は端部が欠損する。外内面はヨコナデである。また、5～7は口縁部付近内面に煤が付着する。4は底径7.3cm。5は口径約7.3cm、器高約3.3cm、底径約9.1cm。6は口径約13.7cm、器高約3.2cm、底径約8.8cm。7は口径約12.5cm、器高約2.9cm、底径約6.4cm。8はやや小振りで厚手のものである。外内面はヨコナデ、底部はナデで、全体に指頭圧痕が残る。口縁部付近内面には僅かに煤が付着する。口径11.4cm、器高2.5cm、底径6.9cm。11,12,24も4～7とほぼ同様の形態で、12,24は口縁部付近に煤が付着する。11は口径約13.9cm、器高3.2cm、底径約8.2cm。12は口径約11.9cm、器高3.1cm、底径約6.7cm。24は口径約13.6cm、器高3.2cm、底径約8.0cm。

土坑(SK01)から土器器环（13～23, 25～28）が出土した。本遺物は、出土状況から非常に一括性の高い資料といえる。

13～23は形態、法量、器面調整等、基本的には前述の土器器环と同様であるが、その中でもやや後を持って外反するもの（15）、やや外反気味の立ち上がりが強いもの（18）、僅かに内縫気味に立ち上がるものの（22）等のバリエーションが見られる。外内面はヨコナデで、底部はナデである。また、13～15, 17, 18, 20, 22, 23の内面及び口縁部付近には煤が付着する。25～28も同様の形態で、25～27の口縁部付近には煤が付着する。13は口径12.2cm、器高3.3cm、底径7.8cm。14は口径約12.2cm、器高3.5cm、底径約7.3cm。15は口径約12.3cm、器高約3.4cm、底径約7.5cm。16は口径約13.4cm、器高約3.4cm、底径約7.2cm。17は口径13.0cm、器高3.5cm、底径6.4cm。18は口径約13.2cm、器高約3.9cm、底径約8.1cm。19は口径約12.8cm、器高3.8cm、底径約7.3cm。20は口径約12.8cm、器高3.4cm、底径約7.1cm。21は口径約13.8cm、器高約3.6cm、底径約8.4cm。22は口径13.0cm、器高3.2cm、底径7.7cm。23は口径約13.1cm、器高約3.4cm、底径約8.8cm。25は口径約13.4cm、器高3.2cm、底径約8.4cm。26

は口径約12.9cm、器高約2.9cm、底径約8.0cm。27は口径約13.1cm、器高2.6cm、底径約7.8cm。28は口径約12.7cm、器高3.1cm、底径約7.1cm。

包含層から須恵器壺底部（29）、須恵器皿（30, 31）が出土している。

29は底部の一部のみの残存で、器種が明確ではないが恐らく壺であろう。外側に強く開いた高台を持つ。外内面は回転ナデで仕上げる。底径約11.9cm。

30・31は口縁部にかけて短く聞く体部を持つ中型の皿である。外内面は回転ナデで、底部はヘラ切りの後にナデで仕上げる。また、30には外内面に火燐が残る。30は口径13.7cm、器高2.8cm、底径11.1cm。31は口径約16.8cm、器高2.6cm、底径約14.6cm。

2. 瓦（図版2～20 写真図版12～38）

本調査で出土した瓦は、大半が平瓦、次いで丸瓦であるが、出土量に比して遺存率が低い。整理段階では、平瓦について比較的の残りの良好なものを含めて角部分が残る破片の数量等の計測を試みたが、限られた調査区の状況からは、計測の意味にすら疑問が生じたので、本報告では計測に関する結果を割愛する。丸瓦については、出来うる限り遺存状況の良好なものを図化した。

軒丸瓦・軒平瓦についても、あまり遺存状況は良好でなかったが、瓦当面の文様が認識できるもの出来る限り図化した。図化した各瓦の出土位置は以下の通りである。

確認調査（坪2）：32

溝(SD01)：33～51, 54, 59～67, 70～82, 84～115

包含層：52, 53, 55～57, 68, 83, 116～122

攪乱：58, 69, 123

出土瓦については、遺物の個々の記述はせず、瓦当の文様や平瓦凸部のタタキの形状等での分類（第13図、第14図）による記述を行った。

・軒丸瓦（第13図 図版2～3 写真図版12～15）

本報告で図化した軒丸瓦は28点である。

軒丸瓦I a：先端の尖った二重線で囲んだ単弁八葉蓮華文を施し、蓮子は9個を基本とした配列で、弁間に珠文を有する。播磨国府系瓦の毘沙門式に属する。

確實にここに分類されるのは（59）である。

軒丸瓦I b：先端の尖った二重線で囲んだ単弁八葉蓮華文を施し、蓮子は7個を基本とした配列で、弁間に珠文を有する。播磨国府系瓦の毘沙門式に属する。

確實にここに分類されるのは（41）である。

軒丸瓦I c：先端の尖った二重線で囲んだ単弁八葉蓮華文を施し、蓮子は4個を基本とした配列で、弁間に珠文を有する。播磨国府系瓦の毘沙門式に属する。

確實にここに分類されるのは（40, 58）である。

その他、蓮子の無いもの、あるいは弁間の珠文がないものを含めて、軒丸瓦I類に分類されるのは（32, 33, 34, 35, 36, 39, 43, 44, 45, 46, 47, 51, 53, 54, 57）である。

軒丸瓦II：単弁八葉蓮華文を施し、蓮子は見られない。播磨国府系瓦の国分寺式に属する。

ここに分類されるのは（37, 48, 49, 50, 55, 56）である。

軒丸瓦III：外区に珠文帯と闇線を巡らし、変形した複弁八葉蓮華文を施す。蓮子は9個前後を配置す

る。播磨国府系瓦の野条式に相当するものである。

ここに分類されるのは（38）である。

軒丸瓦IV：外区に二重の團線を巡らしているが、内側の文様は不明である。便宜上の分類となった。

ここに分類されるのは（42）である。

・軒平瓦（第13図 図版3 写真図版16・17）

本報告で図化した軒平瓦は12点である。

軒平瓦I：珠文帯均整唐草文を施すものである。遺存状況が悪く、中心飾り等も確認できないが、国分寺式に相当するものと考えられる。

ここに分類されるのは（62, 63, 65, 68, 70）である。

軒平瓦II：均整唐草文を施すものである。軒平瓦Iに類似するが、外区に珠文帯を有しないものである。遺存状況が悪く、中心飾り等も確認できないが、国分寺式に相当するものと考えられる。

ここに分類されるのは（61, 64, 67）である。

軒平瓦III：外区に珠文帯を有しない藤手状唐草文を施す。毘沙門式に相当するものである。

ここに分類されるのは（60）である。

軒平瓦IV：外区に珠文帯を有しない藤手状唐草文を施す。毘沙門式に相当するものである。軒平瓦IIIに類似するが、文様の幅等にやや差異が見られる。

ここに分類されるのは（66, 71）である。

これ以外に波状文様を施す（69）が出土しているが、他のものと比較して非常に新しいものと考えられる。

・丸瓦（図版4～9 写真図版18～23）

本報告で図化した丸瓦は14点である。内訳は以下の通りである。

溝(SD01)：72～82, 84, 85

包含層：83

抽出は出来るだけ遺存状況の良好なものとしたが、完形となるものはなかった。以下、一括した解説を行う。

凸面には細かな縱方向の縦目叩きを施し、縦及び横方向のナデで仕上げるが、叩きの痕跡の程度に若干の差異が見られる。凹面には布目圧痕が顕著に残り、粘土板接合痕が残るものもある。端面はヘラケズリで仕上げる。

・平瓦（第14図 図版9～20 写真図版24～38）

本報告で図化した平瓦は38点である。内訳は以下の通りである。

溝(SD01)：86～115

包含層：116～122

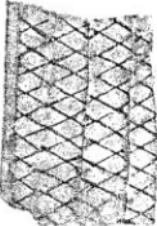
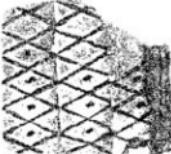
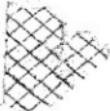
攪乱：123

平瓦については、凸面の叩き目の形態で大分類を行った。

格子目叩きI a：格子の方向が横長に施されていて、格子目の線が細く均一なものである。本遺跡で

	I a	I b	I c
軒 丸 瓦			
	II	III	IV
軒 平 瓦			
	I	II	
軒 平 瓦			
	III	IV	
			

第13図 軒瓦の分類

	I a	I b	II
格子目叩き			
	III	IV	
			
縄目叩き	V a	V b	VI
			
	I	II	III
縄目叩き			

第14図 平瓦の叩きの分類

出土した平瓦に最も多いタイプである。

ここに分類されるのは（86, 88, 89, 91～96, 98, 100, 104～107, 110, 112, 114, 117, 118）である。

格子目叩き I b：格子の方向が横長に施されていて、格子目叩き I a に類似するが、格子目の線が太く均一でないものである。

ここに分類されるのは（87, 108, 109）である。

格子目叩き II：格子の方向が横長に施されていて、格子目叩き I a に類似するが、格子目の内区に珠文を施すものである。珠文の位置及び個数などには、ややばらつきが見られる。

ここに分類されるのは（97, 99, 101～103）である。

格子目叩き III：格子の方向が縦長に施されていて、格子目の線が細く均一なものである。

ここに分類されるのは（113）である。

格子目叩き IV：格子の方向が縦長で、格子の横幅が極めて狭いものである。

ここに分類されるのは（116）である。

格子目叩き V a：格子の形態がやや正方形状を呈しており、格子目の線が細く均一なものである。

ここに分類されるのは（122）である。

格子目叩き V b：格子の形態が細かな正方形状を呈しており、格子目の線がやや太いものである。

ここに分類されるのは（111, 123）である。

格子目叩き VI：格子の形態が細かな長方形状を呈しており、格子目の線がやや太いものである。

ここに分類されるのは（119）である。

繩目叩き I：繩目の形態が丸瓦の凸面に施される叩きに類似し、繩目の撚りの単位が非常に明確なものである。

ここに分類されるのは（115）である。

繩目叩き II：繩目の形態が丸瓦の凸面に施される叩きに類似するが、繩目叩き I より繩目の撚りの単位が明確でなく、やや線状に近いものである。

ここに分類されるのは（121）である。

繩目叩き III：繩目の形態は、繩目叩き II より繩目の撚りの単位が更に不明確で、線状に近いものである。

ここに分類されるのは（120）である。

・文字瓦（第15図 図版9 写真図版24）

文字瓦は本調査において一点出土した（87）。ヘラ描きで施した文字は、平瓦の凹面部の端部付近に位置し、漢字一字が確認できるが、残念ながら丁度左半部が欠損している。

この文字の判読にあたっては、姫路市教育委員会刊行の報告書において、文字瓦の検討がなされており、それを参考にすることとした。その結果、国分尼寺の調査では類似する資料は確認されず、国分僧寺出土のもので確認できた。それは、丸瓦に「秦木」と記されたものであり、もし同様の文字であれば、欠損した左側に「木」の文字が続くことが想定される。



第15図 文字瓦拓影

これまでの姫路市教育委員会の調査で出土した文字瓦に描かれた文字には、「鷦主」・「英」・「成」が多く見られる。特に本報告書で分類した平瓦 I a 及び I b に多くの類例が見られる「鷦主」は、国分僧寺にも非常に多く出土しており、また、尼寺の調査でのみ出土している「成」や、これまで国分僧寺では出土するが、尼寺では未検出とされた平瓦の「牛」・「因」、丸瓦の「秦木」等、国分僧寺及び尼寺から出土する文字瓦において共通の様相を持つものと、そうでないものがある事が分かっている。

文字瓦のこのようなバリエーションは、瓦生産がある一定の組織によって成されたもので、瓦に記された文字が瓦製作にあたった各小集団の代表者を示すものと考えられているが、今回出土した「秦木」と考えられる資料は、尼寺からの出土としては稀少なものであり、国分僧寺造営に使用された瓦の製作集団との関係を考える上において、非常に有意義な資料と考えられる。

3. 石製品（図版21 写真図版39）

石製品としては、包含層から石臼が一点出土している(S1)。石臼は花崗岩製の粉挽き臼で、全体の1/3程が残存する。上面には僅かな凹みと供給口が看取される。臼の目は欠損のため単位が判然としないが、1分割に4~6の溝を持つようである。

第4章 おわりに

今回の調査の結果、後世の削平により築地基壇等の明確な遺構の確認には至らなかったものの、遺物の出土頻度等から播磨国分尼寺の寺域の東限を想定しうる成果が得られた。また、東西約40mにわたって検出した溝内では、特にその西側30mの範囲で多量の瓦の集積を確認し、近接した部分では土師器の壊を一括廻棄したと考えられる土坑も検出した。

集積した瓦は、溝内から南側の平坦な部分にまで及んでおり、調査区南側からの落下という観点から、調査区南側での施設の存在を想定した。ほぼ同時期に調査していた姫路市教育委員会の成果では、本調査区のすぐ西側において金堂の存在が復元でき、さらにその南側で「東西約60m、南北約45m規模の回廊が想定される」という。

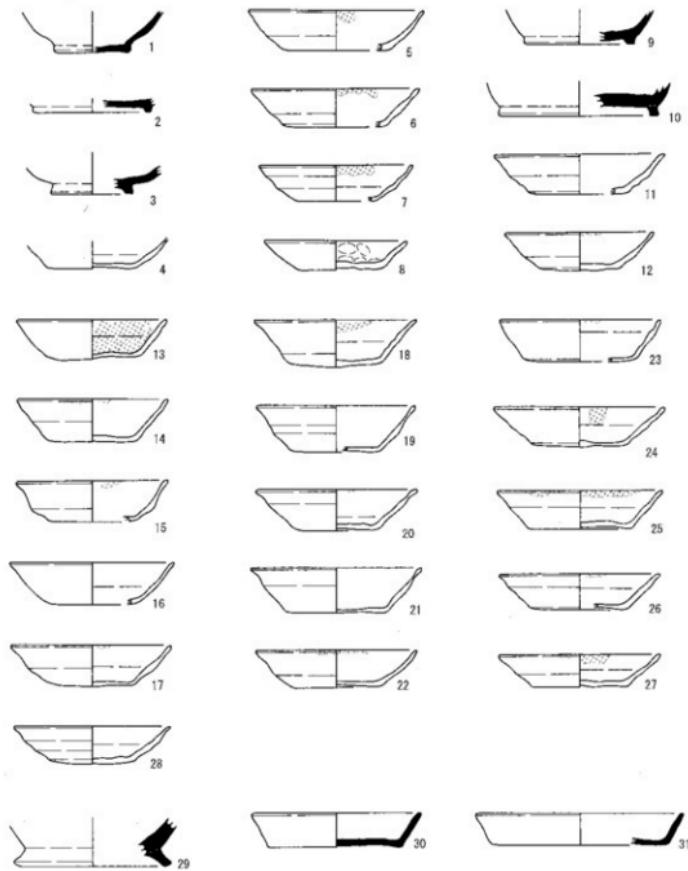
こういった事から、本調査で検出した瓦の集積は、金堂に取りつく東側の回廊に相当する施設から落下した瓦といえよう。しかし、今回のような限られた調査区では、遺構の全体像を想定するには非常に困難である。今後、寺域内において追加調査等が実施される機会があれば、播磨国分尼寺跡の復元におけるより濃密な情報が与えられるであろうし、調査に携わった者として切に思うところである。

最後に、発掘調査実施中、航空写真撮影を目前にして軒丸瓦一点が紛失した。当方の管理上の問題もあったが、非常に残念な出来事として記憶に残っている。以後、この様な事件のないことを願うものである。

報告書抄録

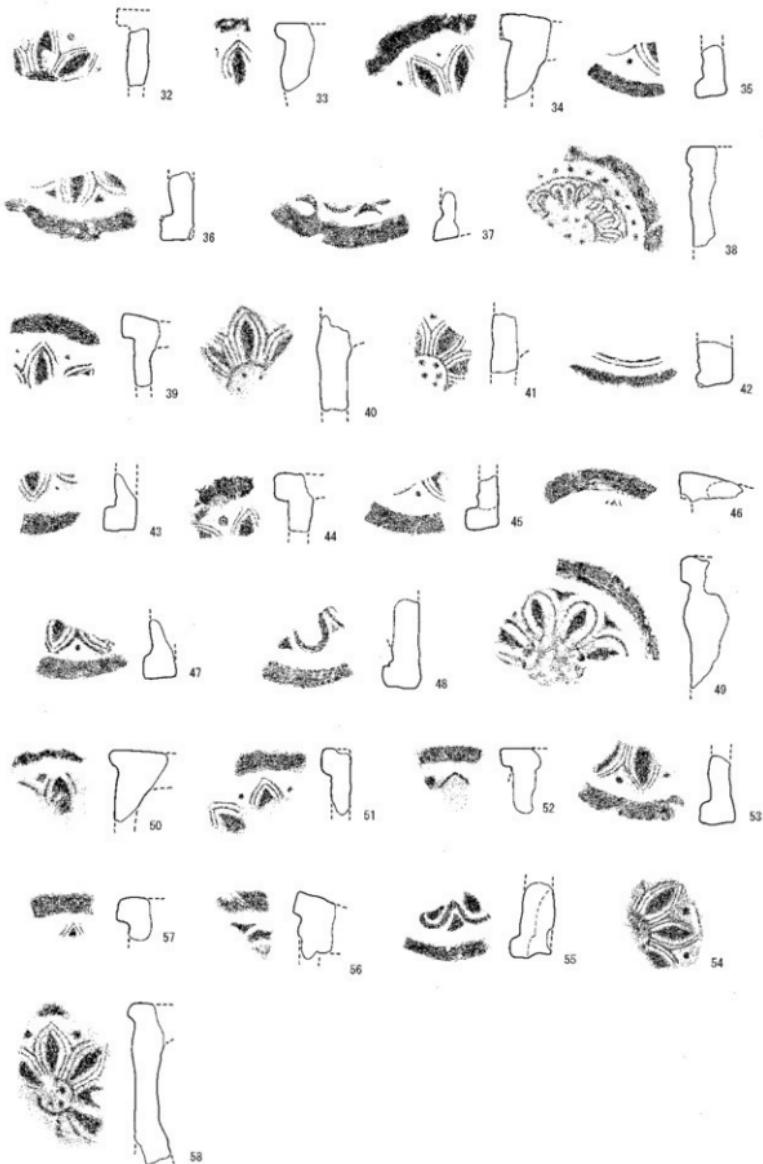
ふりがな	はりまこくぶにじあと							
書名	播磨国分尼寺跡							
原書名	(主)神戸加古川姫路線(姫路市国分寺工区)道路改良工事に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第252番							
編集者名	久保弘幸・深江英憲							
編集機関	兵庫県教育委員会歴史文化財調査事務所							
所在地	〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号			TEL 078-531-7011				
発行年月日	西暦2003(平成15)年3月20日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡調査番号					
兵庫津遺跡	兵庫県姫路市御坂町国分寺字北沙門	28201	本文第1章 参照	34度 49分 24秒	134度 44分 4秒	本文第1章参照		(主)神戸 加古川姫路 線道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物		特記事項		
播磨国分尼寺	寺院跡	奈良~平安	構・土坑	土器・瓦・石製品		「秦」の文字瓦		

図 版



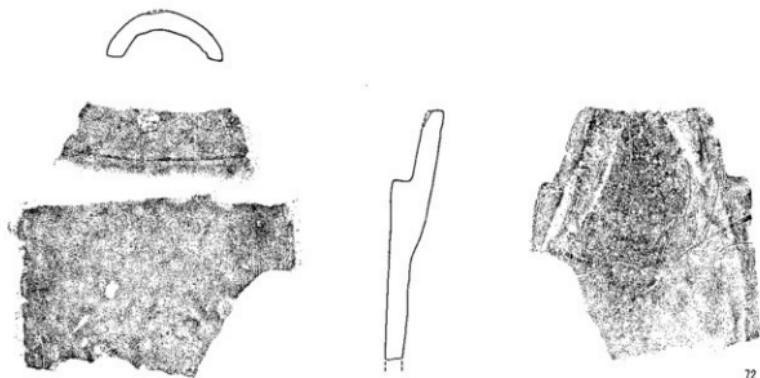
0 20cm

土器 1

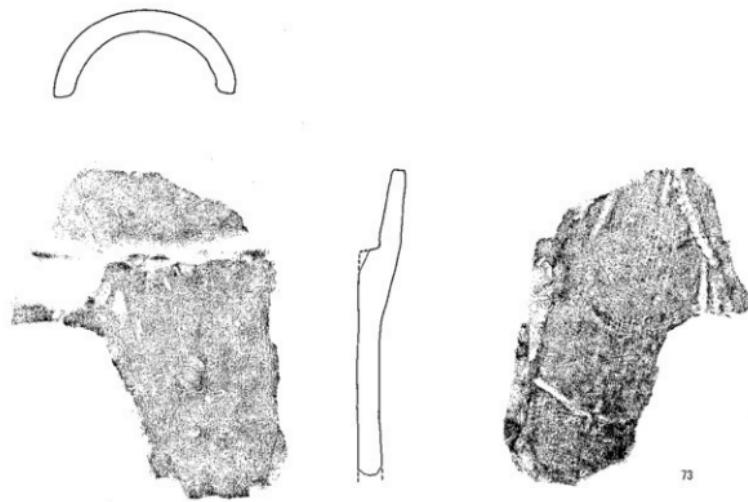




軒丸瓦 2・軒平瓦 1



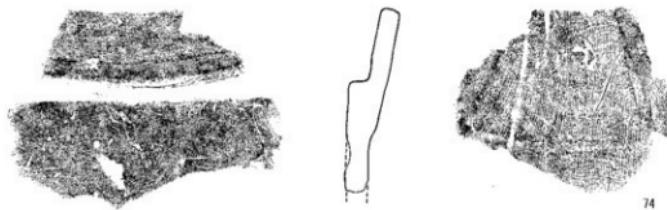
72



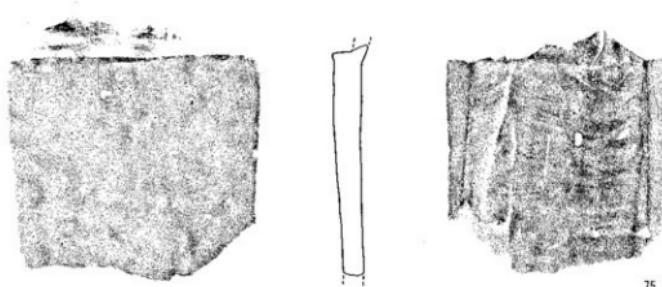
73



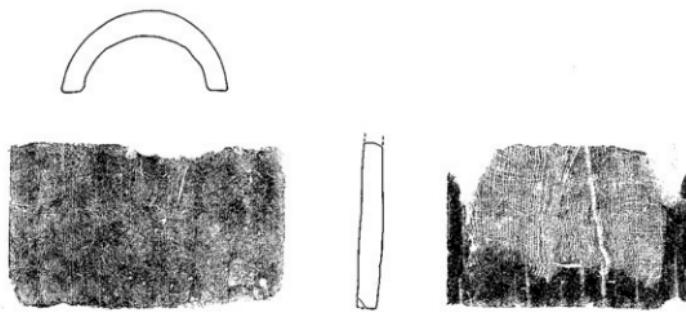
丸瓦 1



74



75

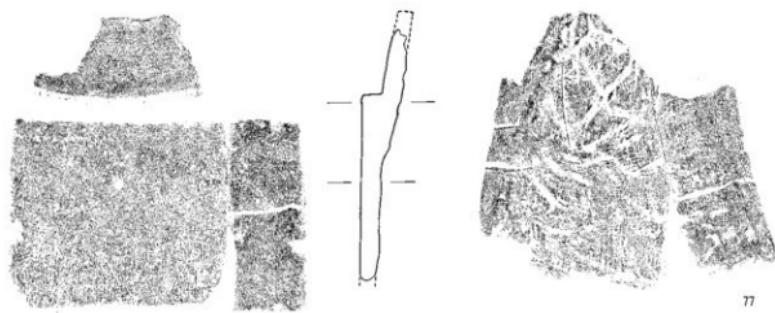


76

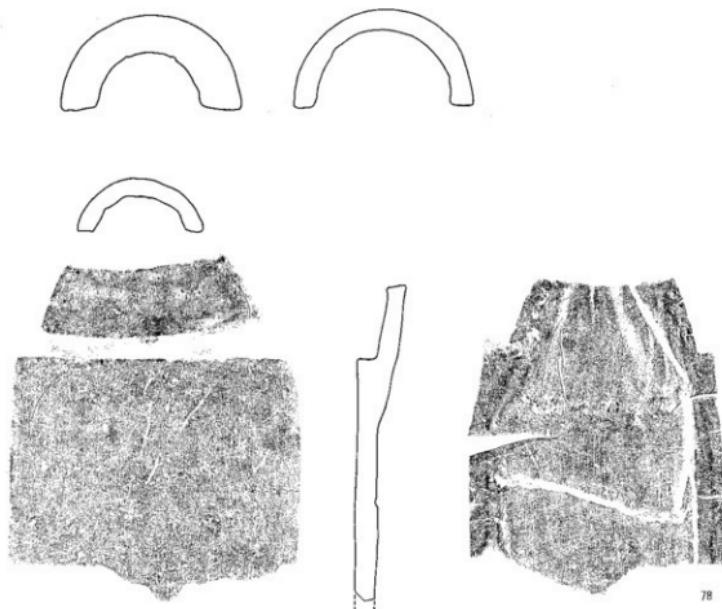


丸瓦 2





77

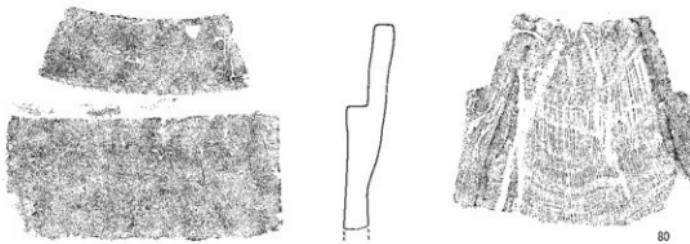
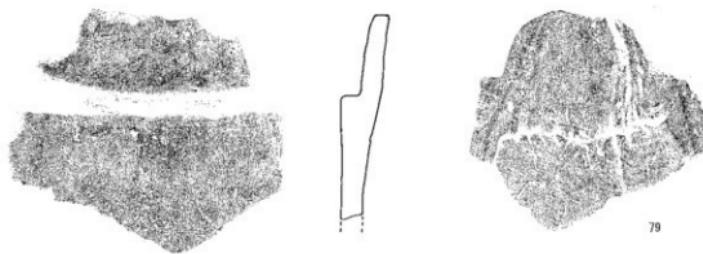


78

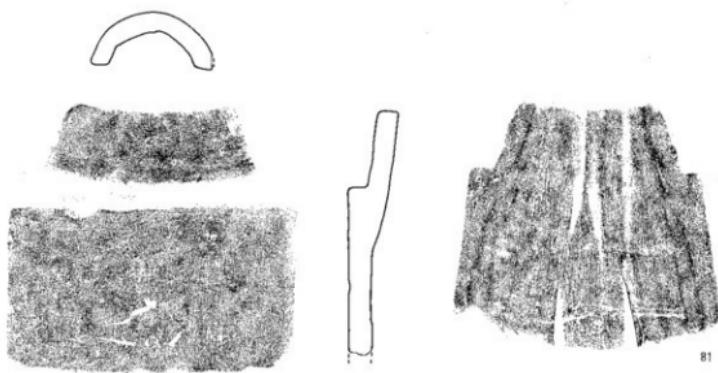


0 20mm

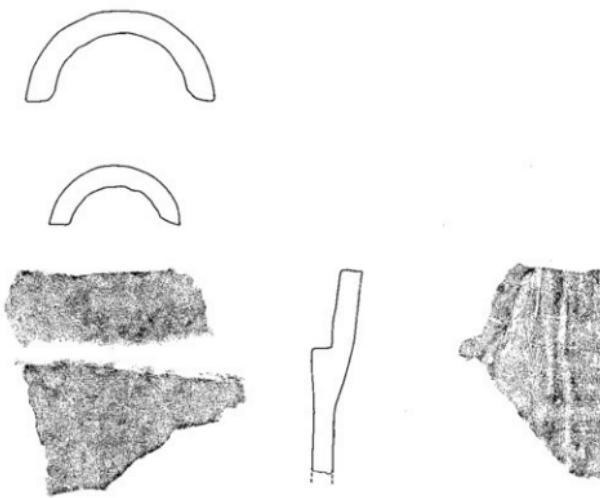
丸瓦 3



丸瓦 4

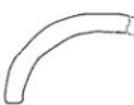
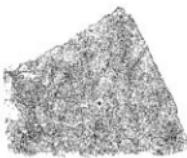
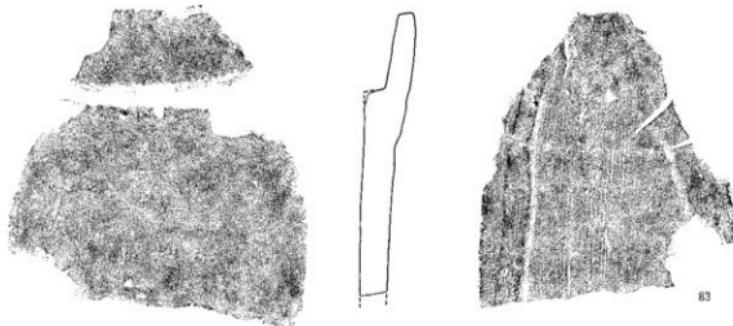


81



82

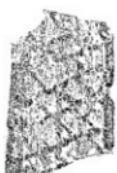




84



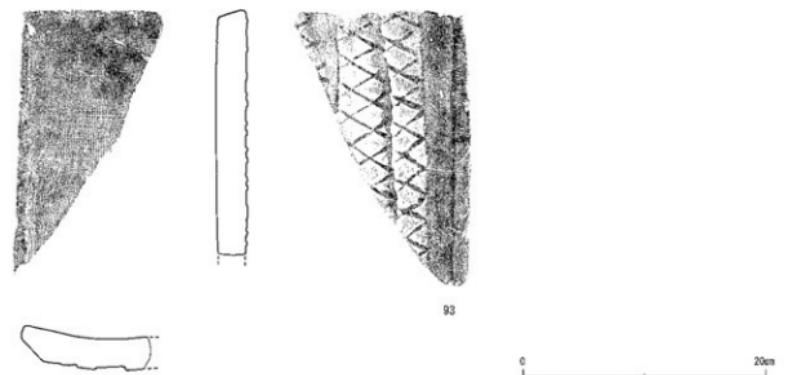
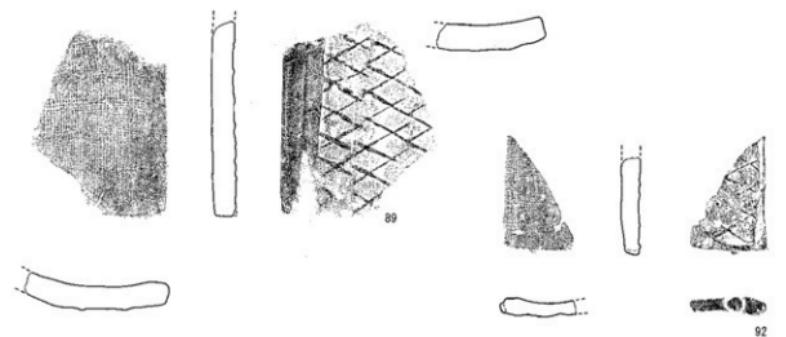
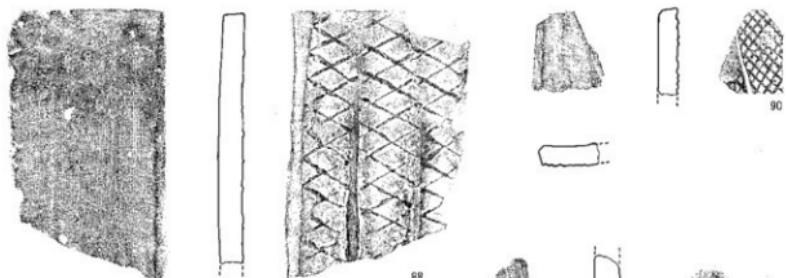
86



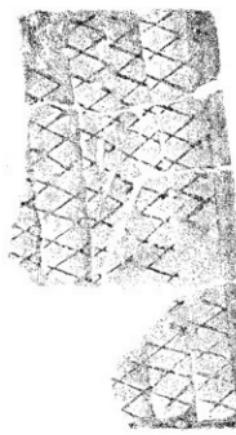
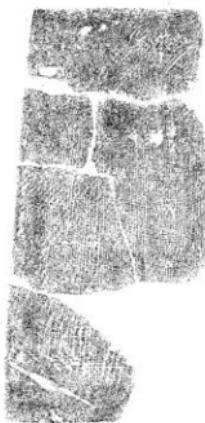
87



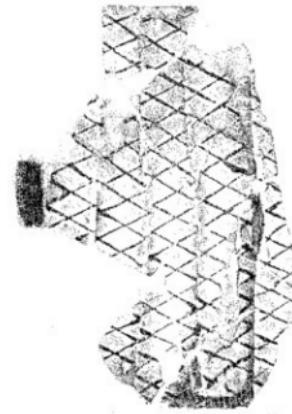
丸瓦 6・平瓦 1



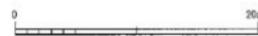
0 20cm



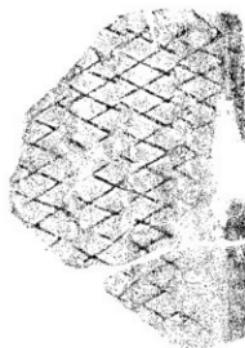
94



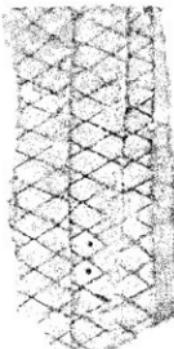
95



平瓦 3



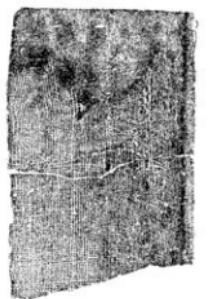
96



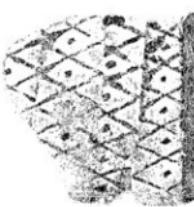
97



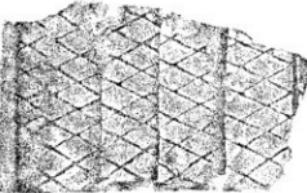
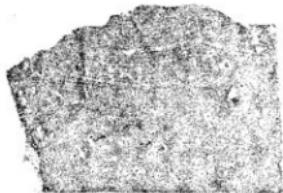
平瓦 4



98



99



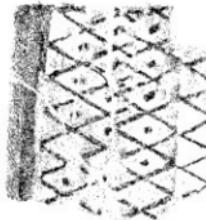
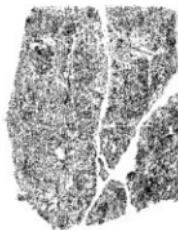
100



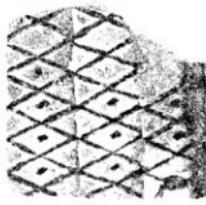
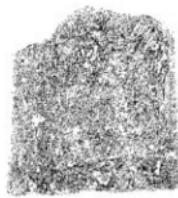
平瓦 5



101



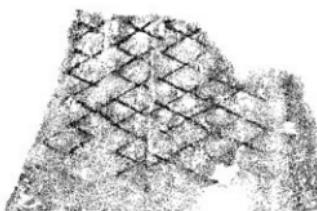
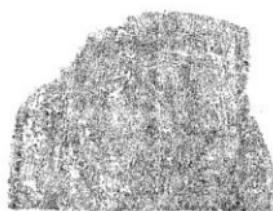
102



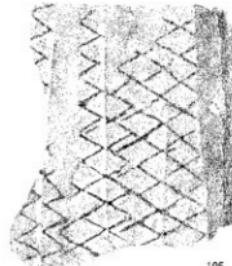
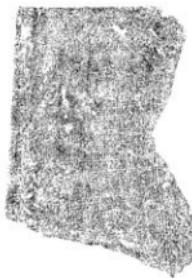
103



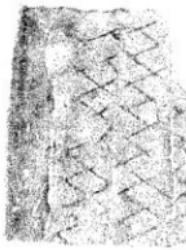
平瓦 6



104



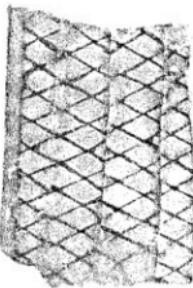
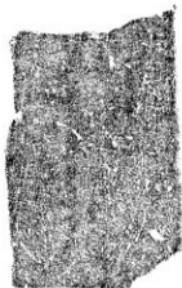
105



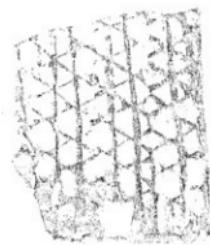
106



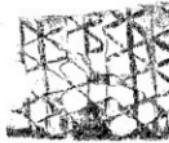
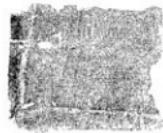
平瓦 7



107



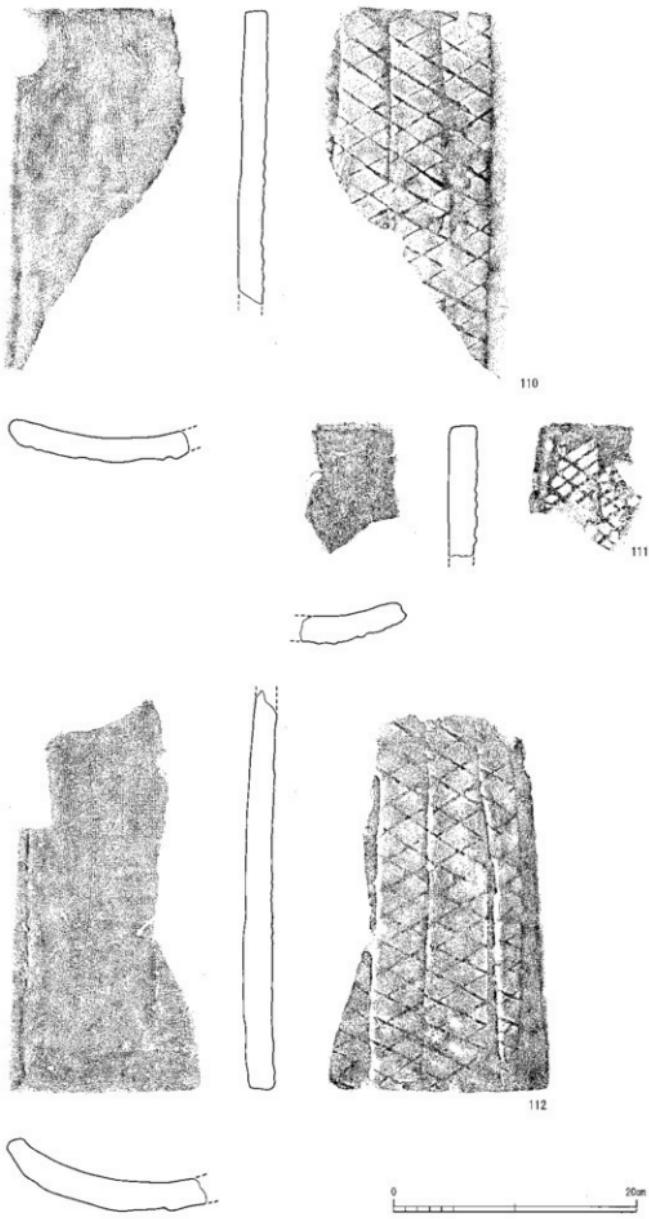
108



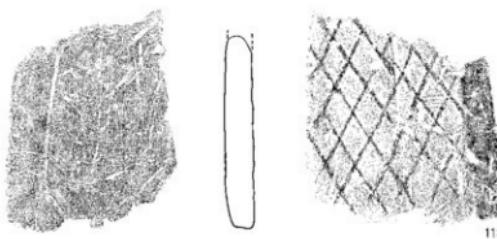
109



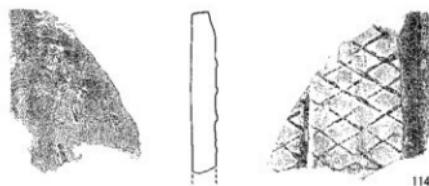
平瓦 8



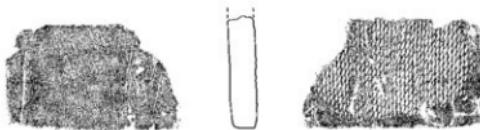
平瓦 9



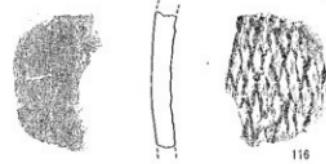
113



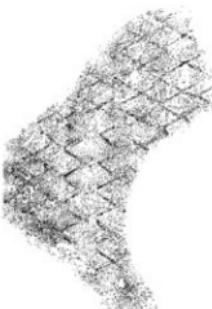
114



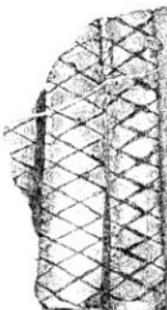
115



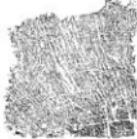
平瓦10



117



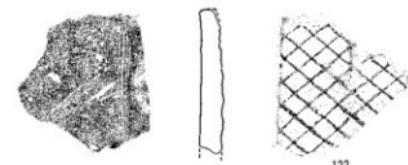
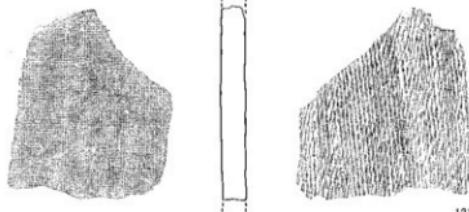
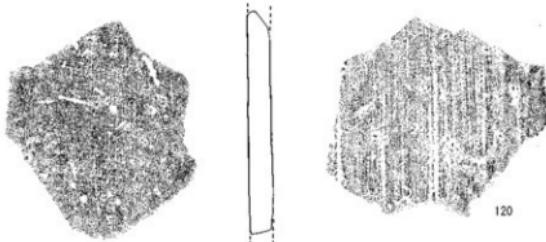
118



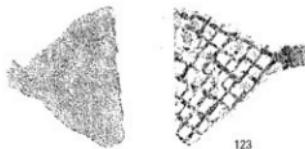
119



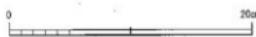
平瓦11

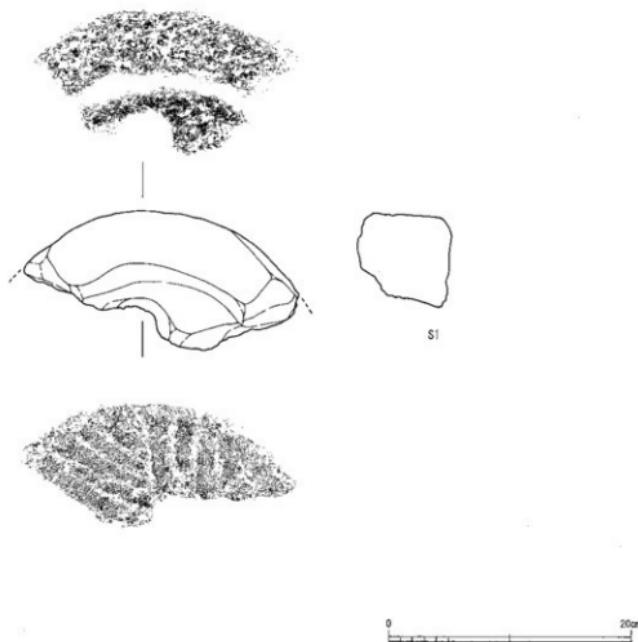


122



123





石製品 1

写 真 図 版



調査位置と播磨国分尼寺跡推定寺城（上空南から）

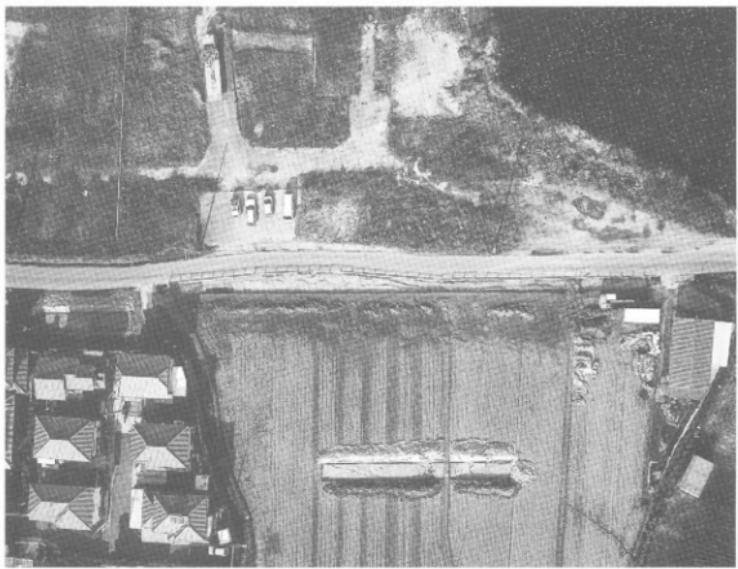


調査区全景（上空東から）

写真図版 2



調査区全景（上空西から）



調査区全景（上空真上から）



瓦出土状況全景（東から）



S D01西側瓦出土状況（南から）

写真図版 4



S D01西側瓦出土状況（南東から）



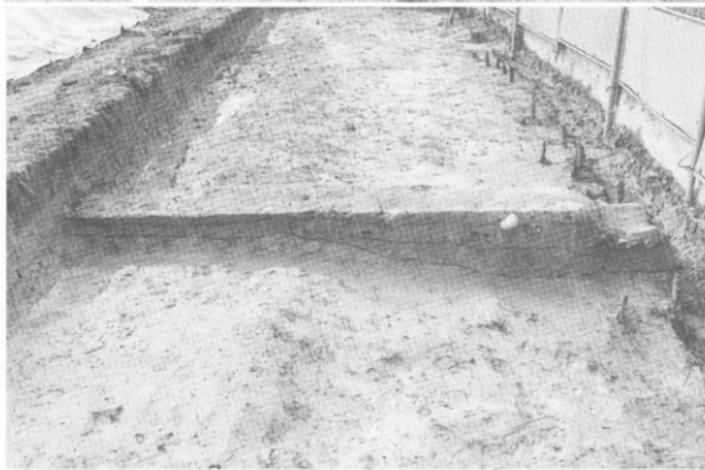
S D01西側及びS K01遺物出土状況
(南から)



S K01完掘状況（北から）



S D01畦①断面東壁（東から）



S D01畦②断面東壁（東から）



S D01畦③断面西壁（西から）

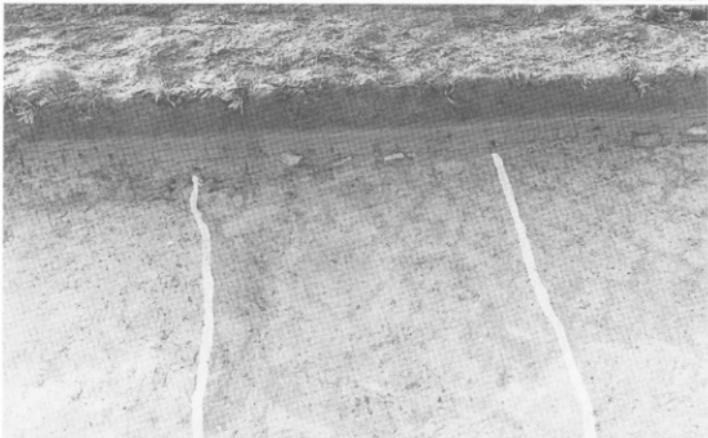
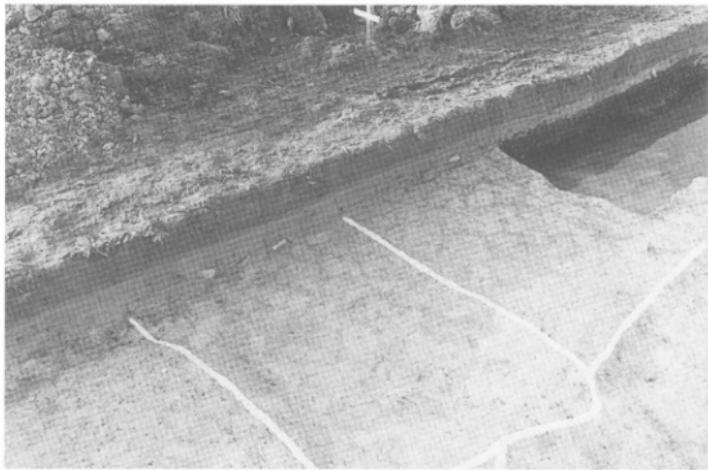
写真図版 6



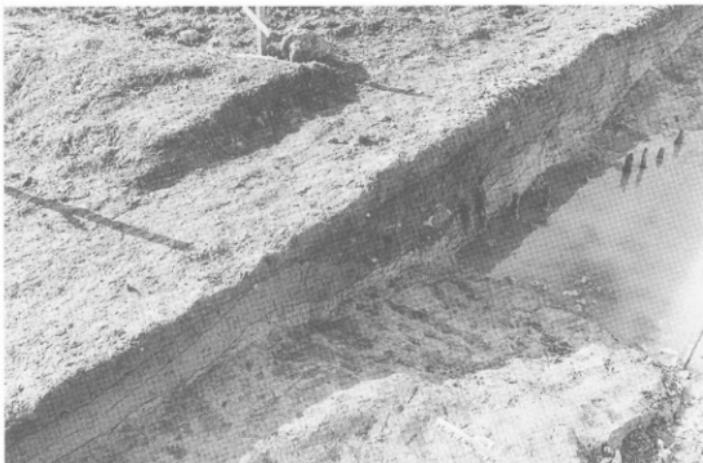
完掘状況全景（東から）



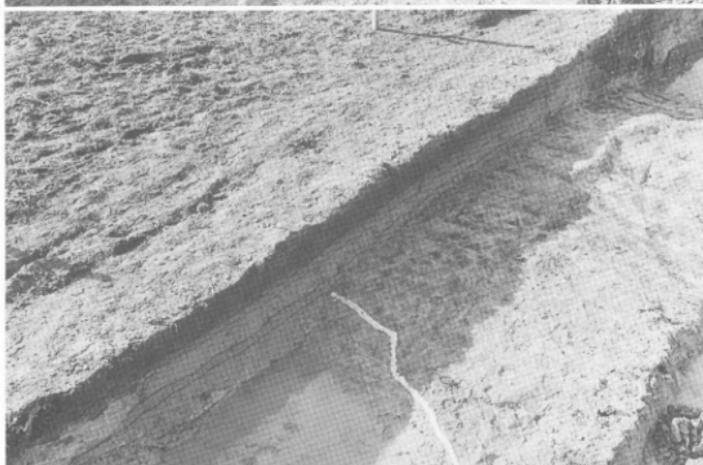
S D01東側断面南壁（北東から）



写真図版 8



S D01及び東築地付近南壁断面
(北東から)



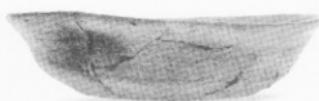
東築地及びS D02付近南壁断面
(北東から)



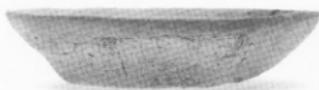
S D02付近南壁断面 (北東から)



4



15



8



17



11



18



12



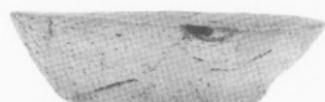
19



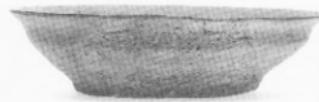
13



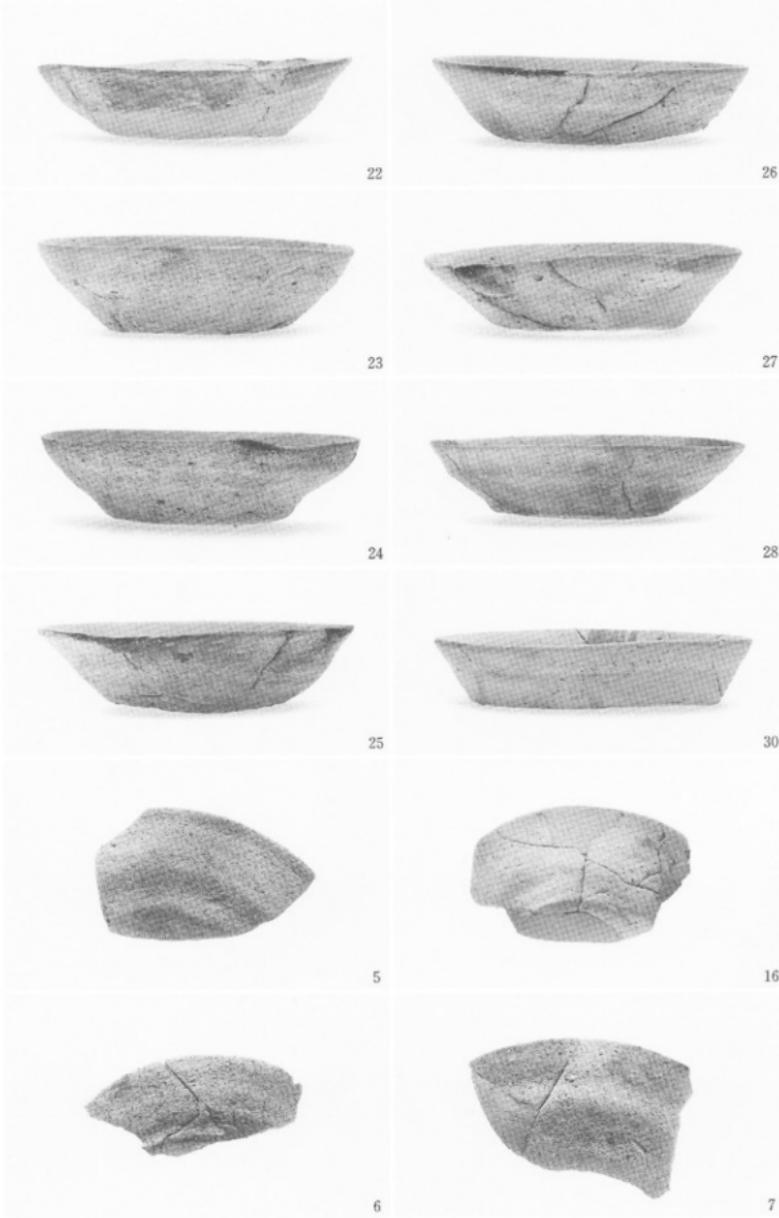
20



14



21



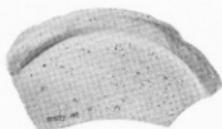
土器 2



29



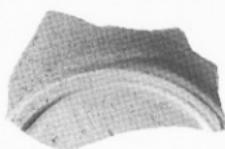
3



2



10



9



31



1



32



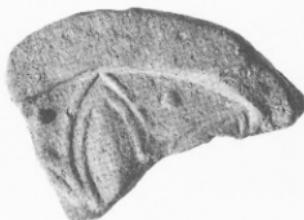
35



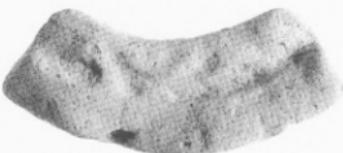
34



33



39



37



38



36



40



44



46



45



41



42



43



49



47



48



50



51



53



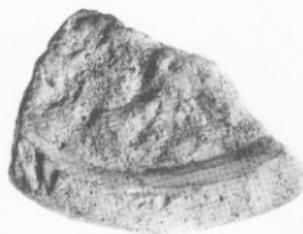
52



56



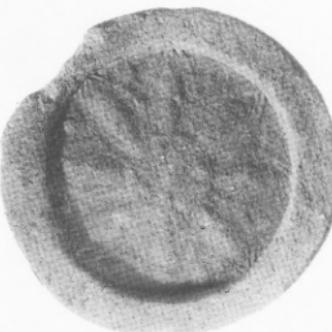
57



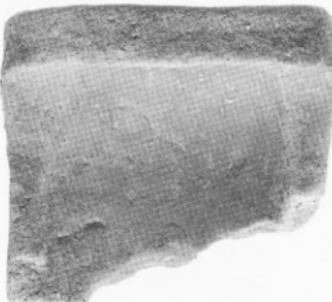
55



54

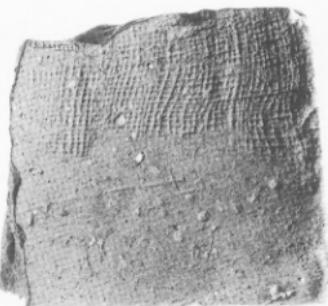


58

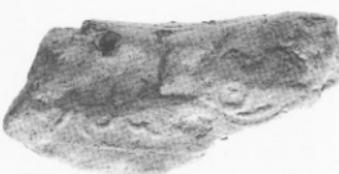


59

軒丸瓦 4



60



62



63



64



65



66

軒平瓦 1



66



68



69



70



71



67

軒平瓦 2



72

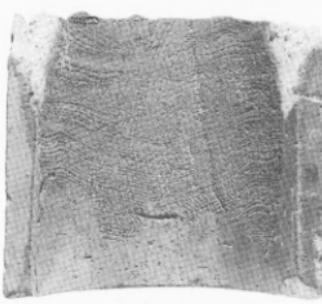


73

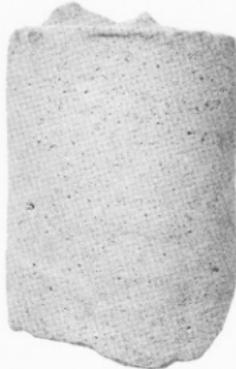
丸瓦 1



74



76



75

丸瓦 2

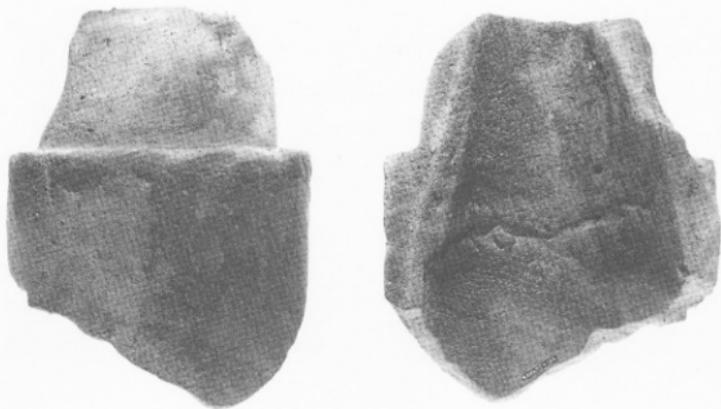


77



78

瓦 3



79

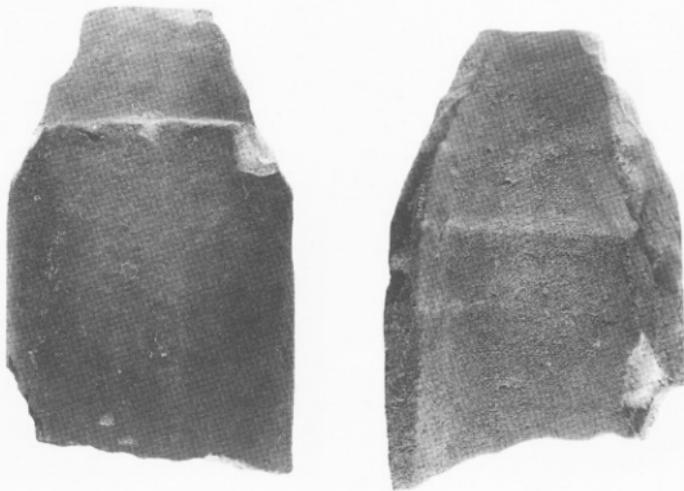


81

丸瓦 4

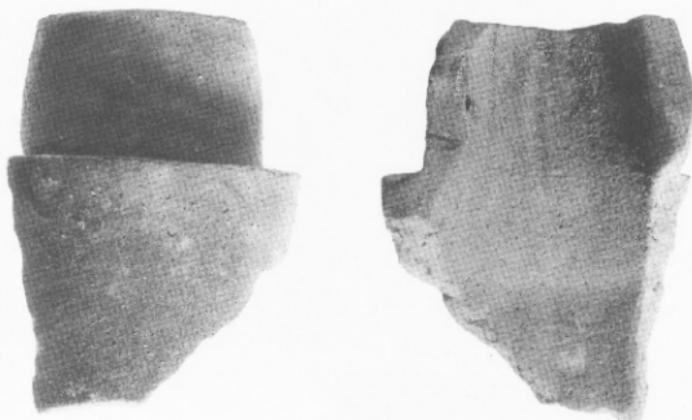


80



83

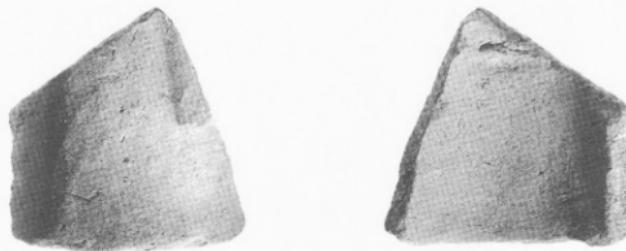
丸瓦 5



82



85



84

丸瓦 6



87



86

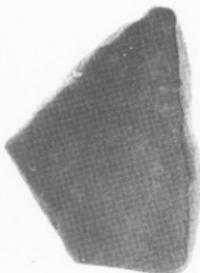
平瓦 1



88



90



91

平瓦 2

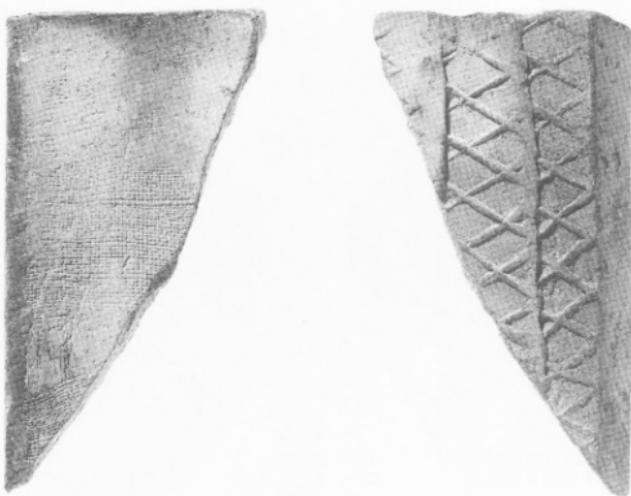


89

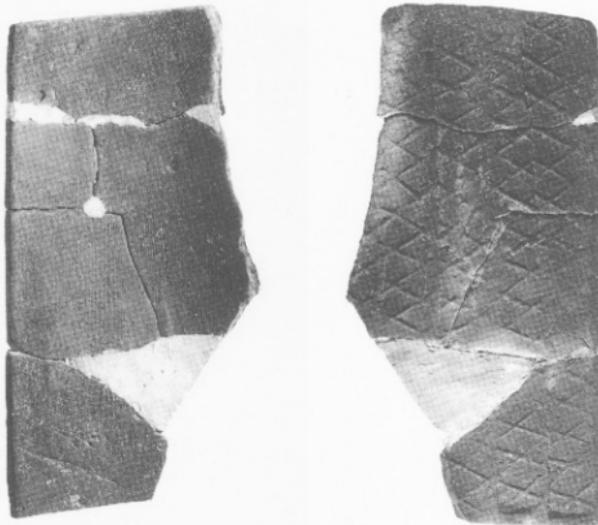


92

平瓦 3

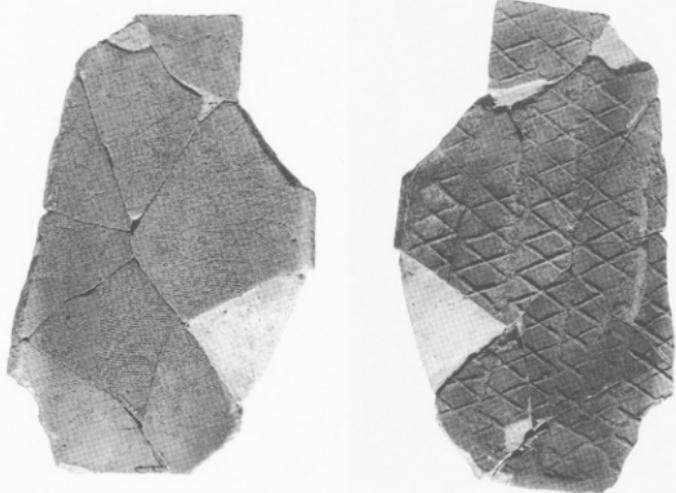


93

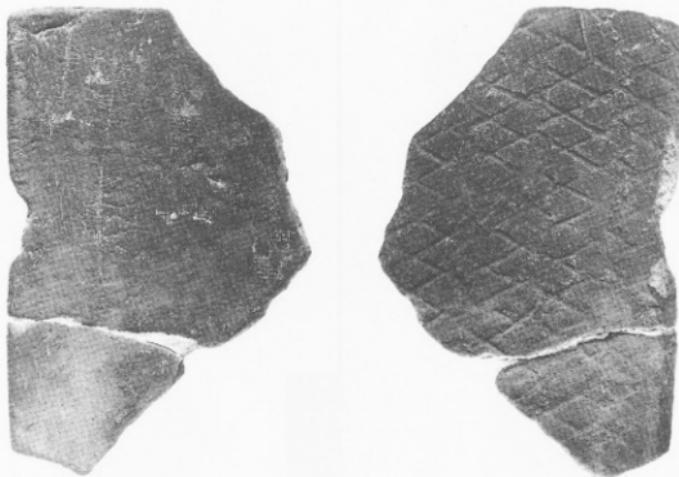


94

平瓦 4

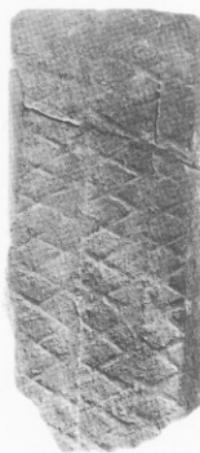


95

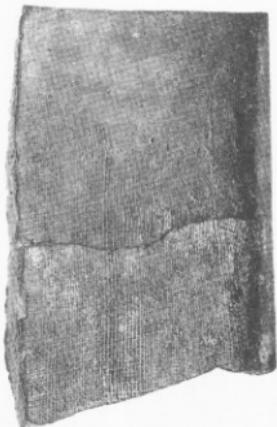


96

平瓦 5



97

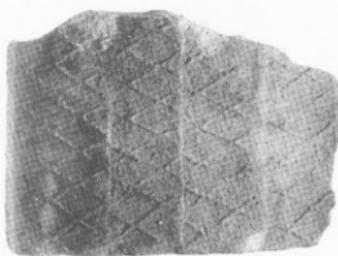
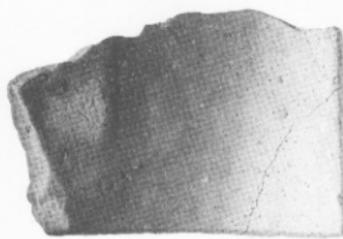


98

平瓦 6



99

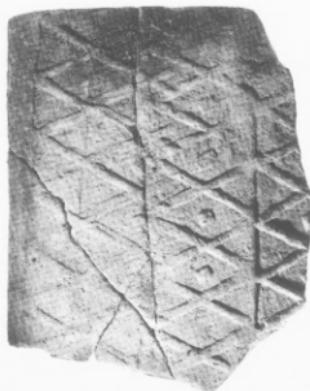


100

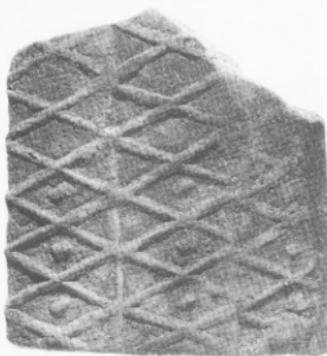
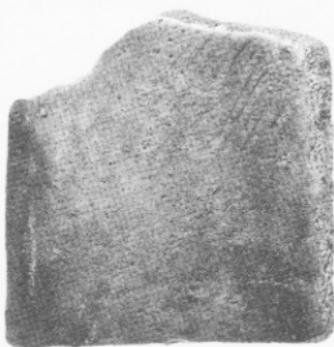


101

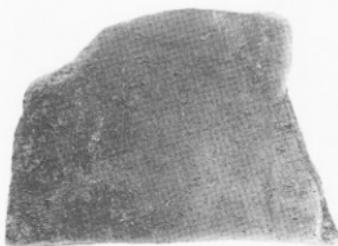
平瓦 7



102

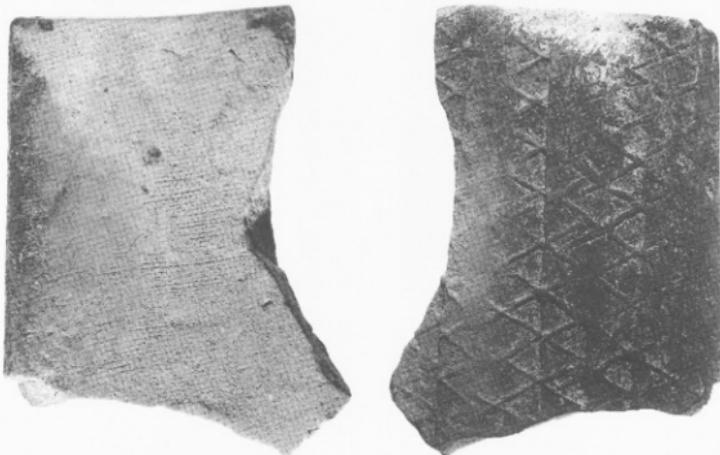


103

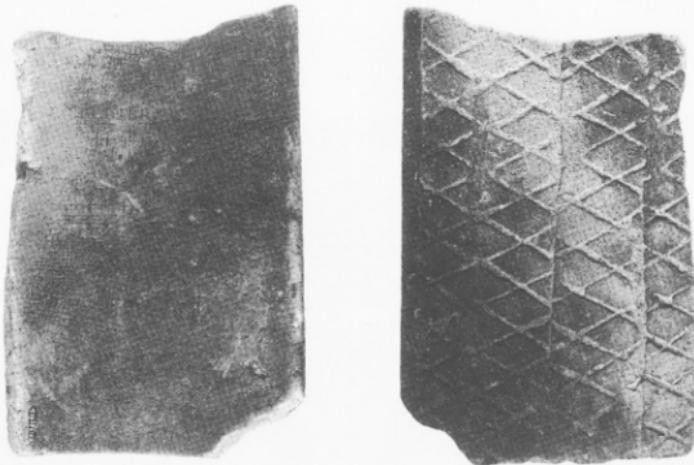


104

平瓦 8

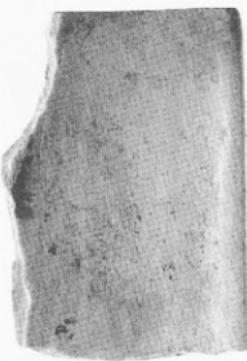


105

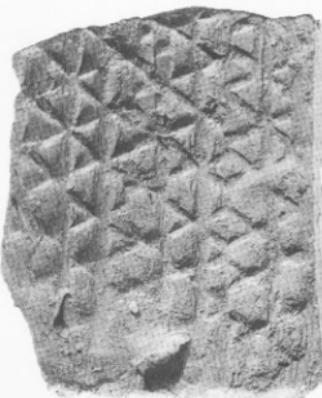


107

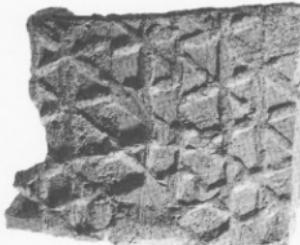
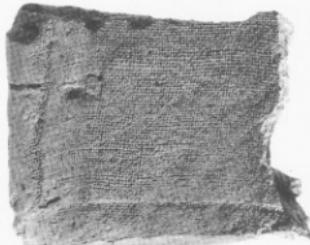
平瓦 9



106

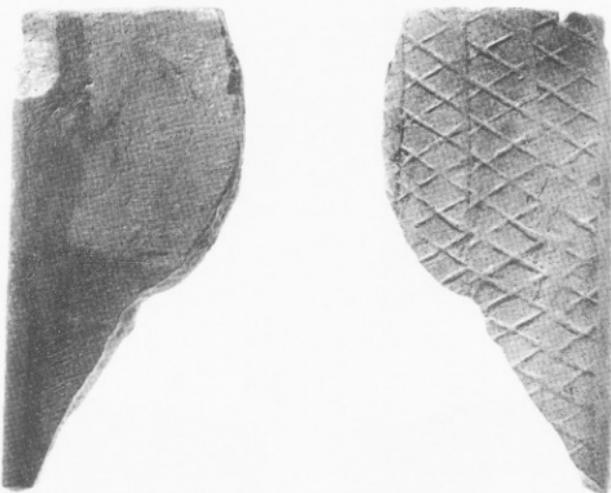


108

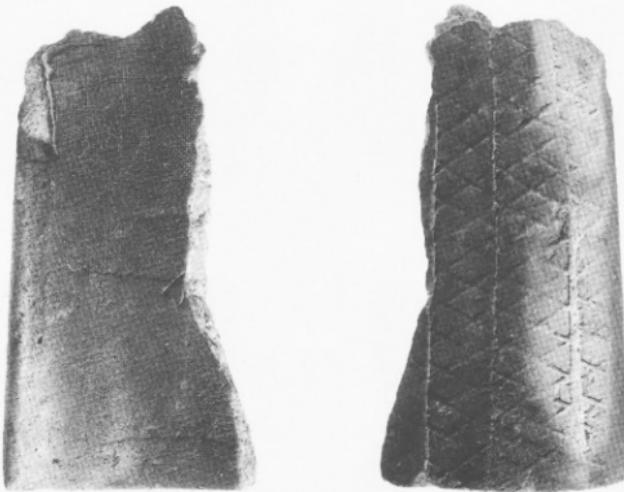


109

平瓦10



110



112

平瓦11



111

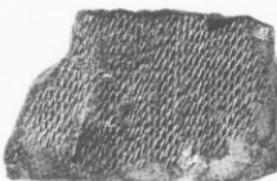
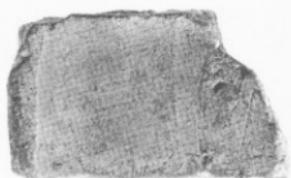


113



114

平瓦12



115



116



117

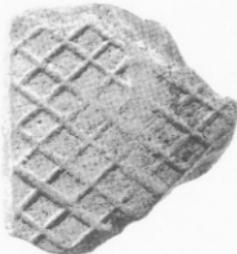
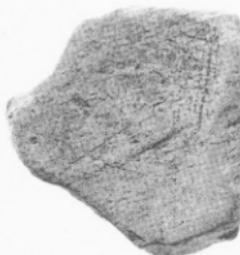
平瓦13



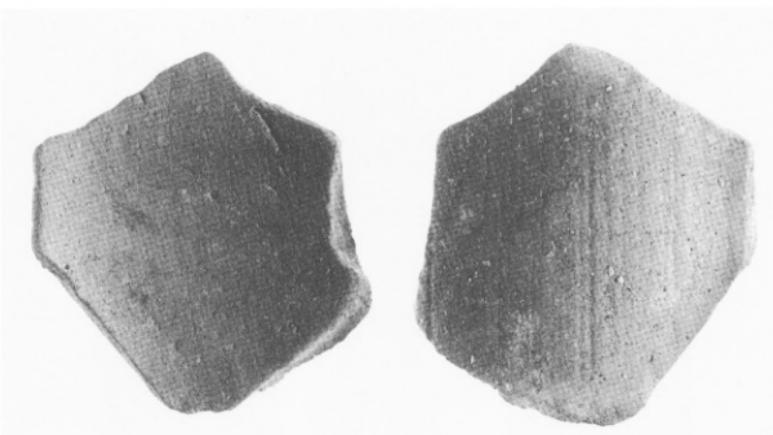
118



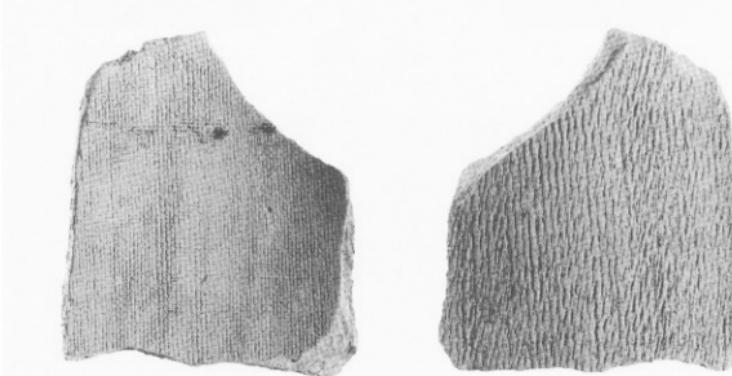
119



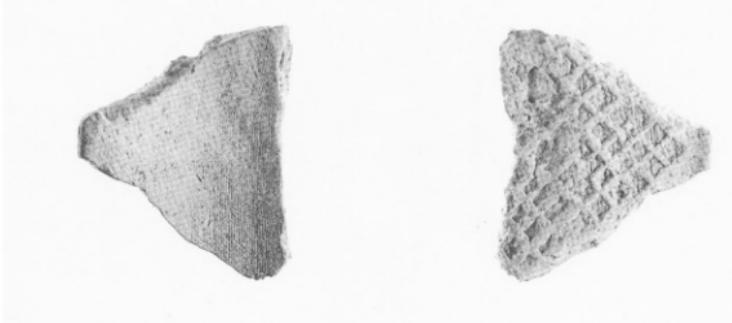
122



120



121



123

平瓦15



S 1

石製品 1

兵庫県文化財調査報告 第252冊

播磨国分尼寺跡

(主) 神戸加古川姫路線(姫路市国分寺工区)
道路改良工事に伴う発掘調査報告書

平成15年3月20日発行

編集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号

TEL 078-531-7011

発行 兵庫県教育委員会
〒650-0011 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
印刷 菱三印刷株式会社
〒652-0803 神戸市兵庫区大開通2丁目2-11
